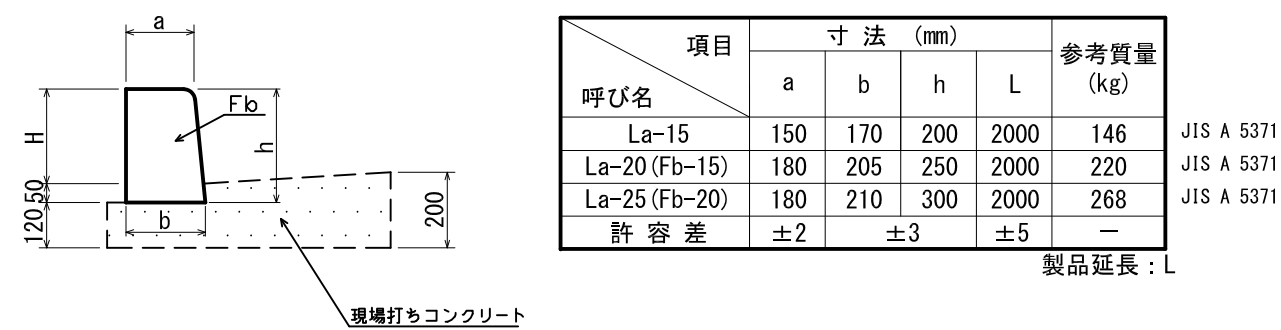
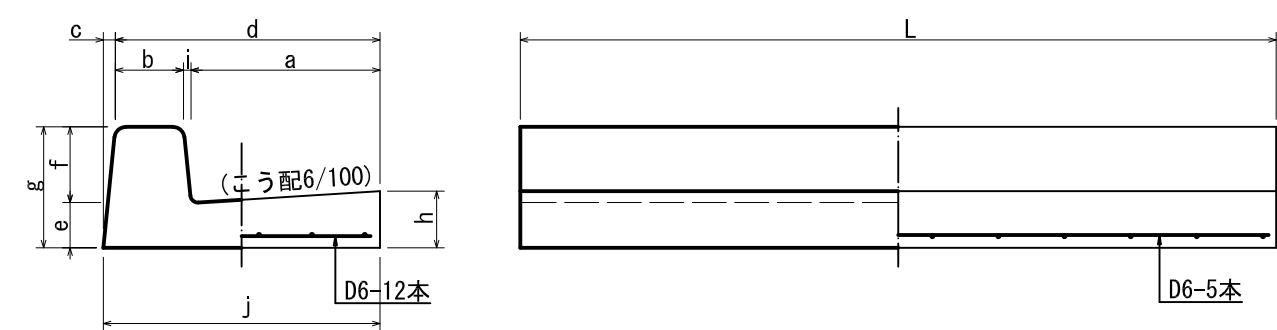


名称	L形側溝	標準設計番号	道－I－1
		工種記号	La～Ld

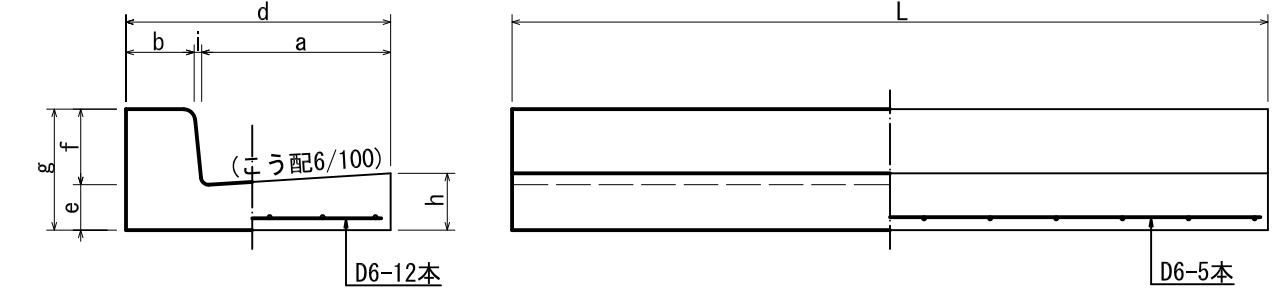
a 種



d 種



b 種



項目	寸法 (mm)									参考質量 (kg)
呼び名	a	b	d	e	f	g	h	i	L	
Lb-15	500	150	665	120	150	270	150	15	2000	532
Lb-20	500	180	700	120	200	320	150	20	2000	621
Lb-25	500	180	705	120	250	370	150	25	2000	672
許容差	—	±2	±2	—	±2	±3	±3	—	±6	—

c 種

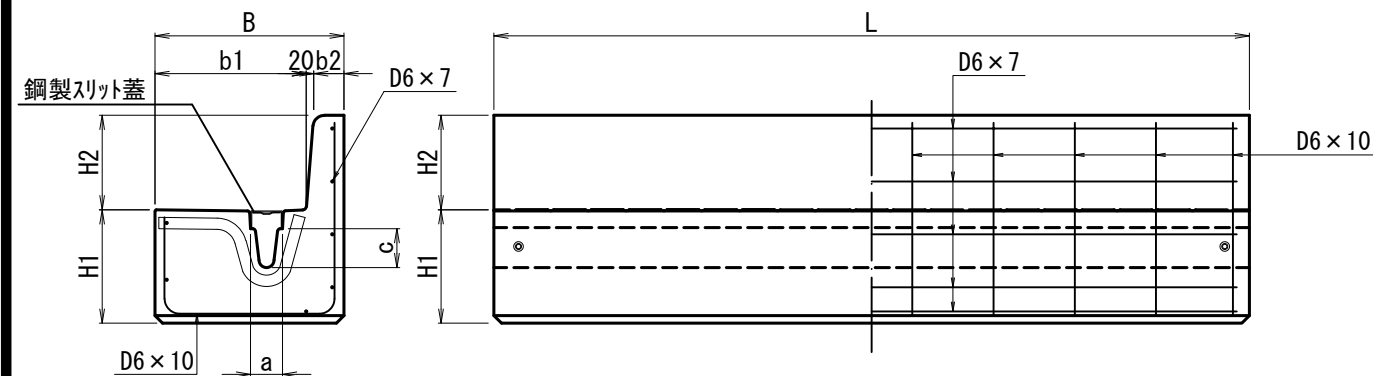


特記事項

- ・ a種、c種は $\sigma c k=24N/mm^2$ 以上、b種は $\sigma c k=27N/mm^2$ 以上、d種は $\sigma c k=30N/mm^2$ 以上。
- ・ 鉄筋はSD295とする。
- ・ 吊り下げ孔を用いる等、施工に配慮することが出来る。
- ・ La-15, La-20, La-25, Lb-15, Lb-20, Lb-25, Lc-15, Lc-20, Lc-25 は JIS 仕様を準用している。
- ・ 歩道部に防草効果をもとめる際には、切り込みを設けることが出来る。

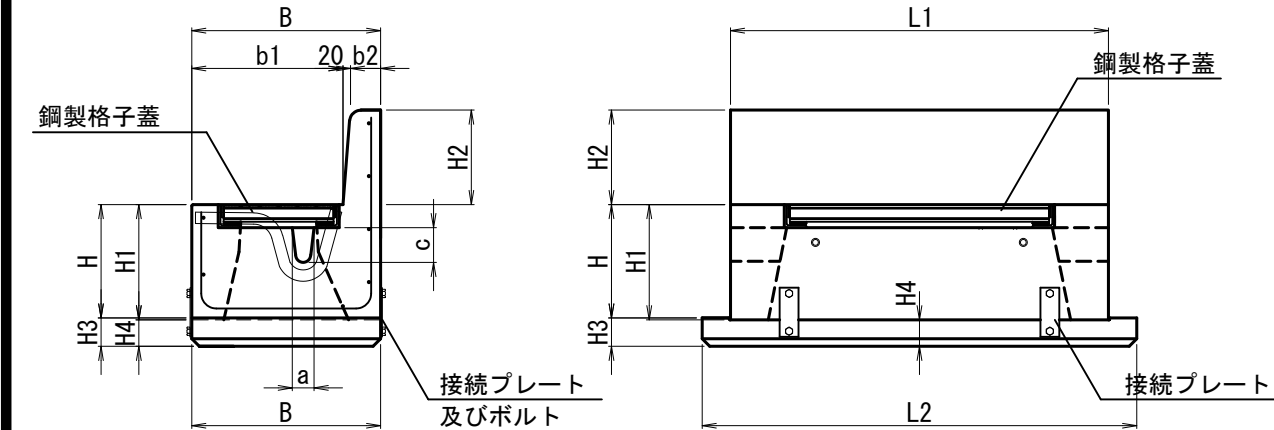
名称	トンネル用路面排水側溝	標準設計番号	――
		工種記号	――

側溝



項目	寸法 (mm)								参考質量 (kg)
呼び名	B	H1	H2	L	a	b1	b2	c	
側溝	500	300	250	2000	85	400	80	103	752
許容差	+5, -3	+5, -3	+5, -3	±5	±3	±3	±3	±3	—

柵



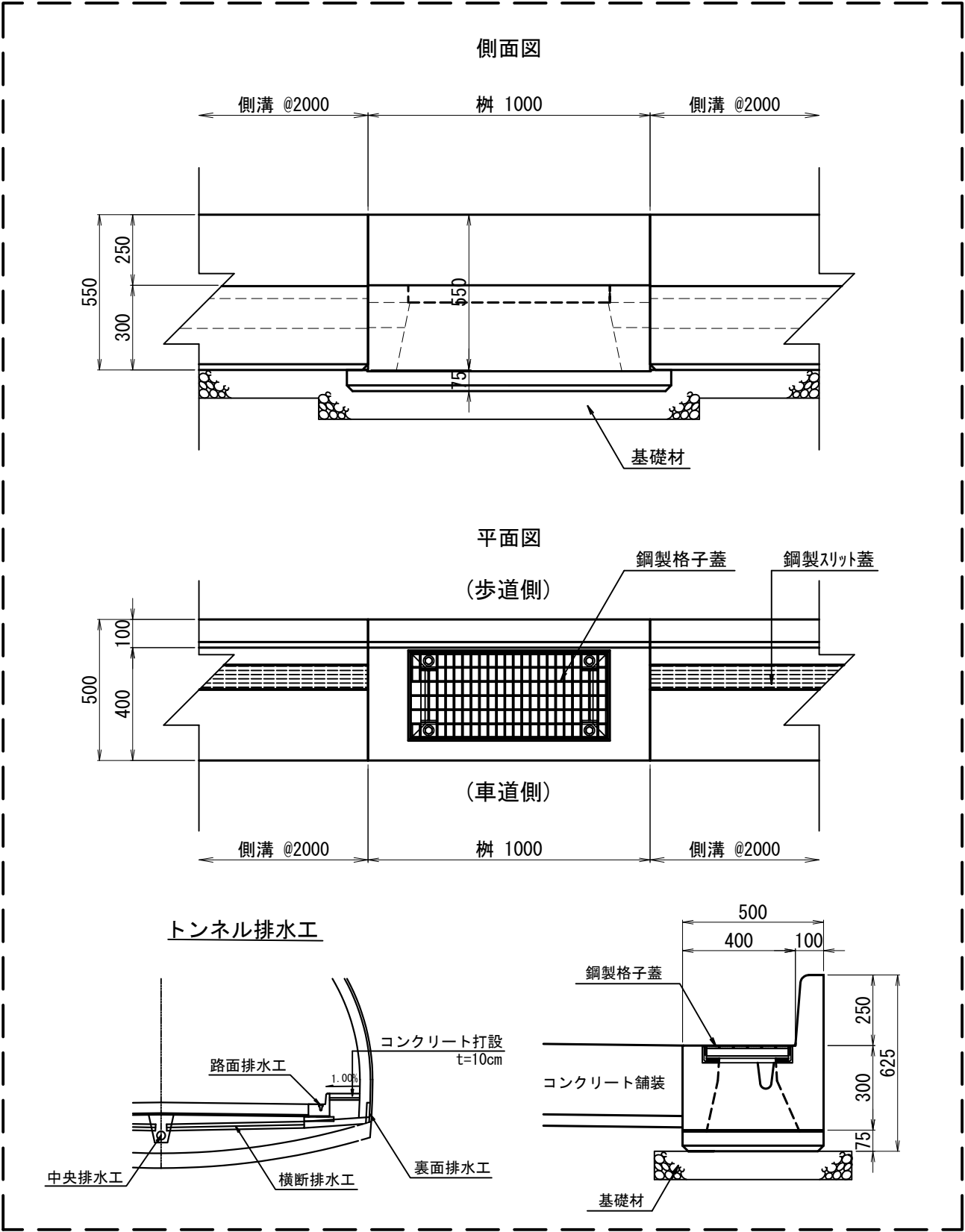
項目	寸法 (mm)								参考質量 (kg)
呼び名	B	H	H1	H2	L1	a	b1	b2	
柵	500	300	305	250	1000	58	400	80	105
許容差	+5, -3	+5, -3	+5, -3	+5, -3	±5	±3	±3	±3	±3

項目	寸法 (mm)			参考質量 (kg)
呼び名	H3	H4	L2	
柵	75	70	1000	380
許容差	±3	±3	±5	—

特記事項

- ・ $\sigma_{ck} = 30\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・ タイヤの接地面には、すべり止めを設けることができる。
- ・ 柵の組立ては、接続プレート及びボルトにより接合する。
- ・ つり下げ孔を設ける等、施工に配慮することができる。
- ・ 鉄筋は、SD295とする。

参考図表



名称

縁 石

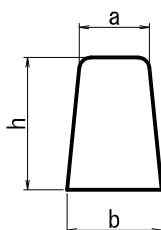
標準設計番号

道－Ⅰ－2

工種記号

Fa～Fc

a 種Ⅰ型



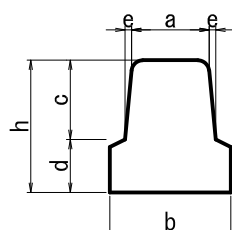
項目 呼び名	寸 法 (mm)				参考質量 (kg)
	a	b	h	L	
Fa-10	150	190	200	2000	155
Fa-15	180	230	250	2000	234
Fa-20	180	240	300	2000	288
Fa-25	180	250	350	2000	344
Fa-30	180	260	400	2000	403
許 容 差	±2	±3		±5	—

JIS A 5371

JIS A 5371

JIS A 5371

a 種Ⅱ型

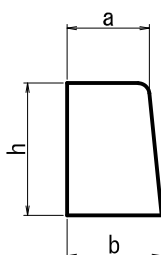


項目 呼び名	寸 法 (mm)							参考質量 (kg)
	a	b	c	d	e	h	L	
Fa-20(Ⅱ)	200	320	210	140	20	350	2000	413
Fa-25(Ⅱ)	200	320	260	140	20	400	2000	464
許 容 差	±2	±3	—			±3	±5	—

製品延長：L

製品延長：L

b 種



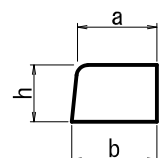
項目 呼び名	寸 法 (mm)				参考質量 (kg)
	a	b	h	L	
Fb-15	180	205	250	2000	220
Fb-20	180	210	300	2000	268
Fb-25	180	215	350	2000	317
Fb-30	180	220	400	2000	367
許 容 差	±2	±3		±5	—

JIS A 5371

JIS A 5371

製品延長：L

c 種



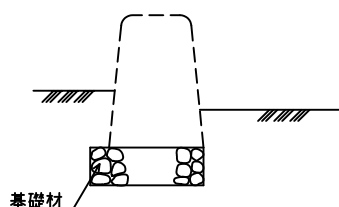
項目 呼び名	寸 法 (mm)				参考質量 (kg)
	a	b	h	L	
Fc-2	210	220	100	1000	49
Fc-5	210	225	150	1000	74
許 容 差	±2	±3		±5	—

製品延長：L

特記事項

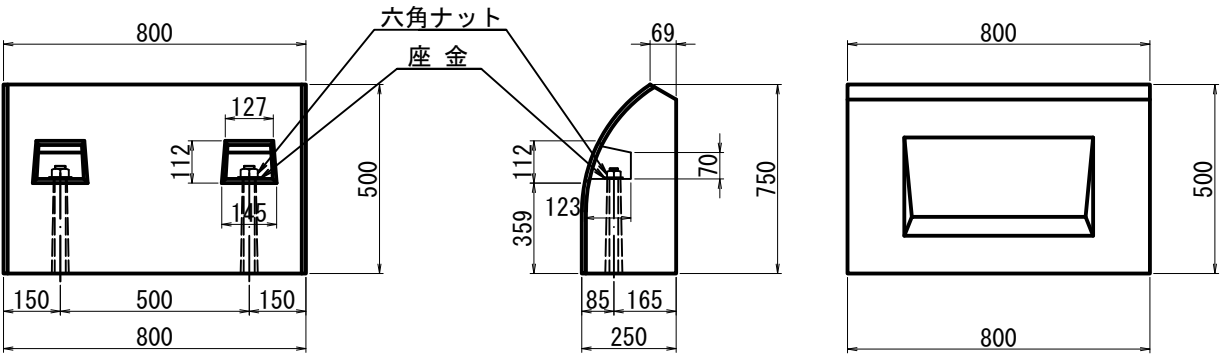
- ・ $\sigma_{ck} = 24\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・ 運搬及び施工性を確保するため、つり下げ孔などを設けることが出来る。
- ・ Fa-10, Fa-15, Fa-20, Fb-15, Fb-20 は JIS 仕様を準用している。
- ・ Fc-2 は横断歩道部用、Fc-5 は乗入れ部用である。
- ・ デリネーター用、すり付け用も製作することが出来る。
- ・ 歩道部に防草効果をもとめる際には、切り込みを設けることが出来る。

参考図



名称	駒止ブロック	標準設計番号	――
		工種記号	――

Ⅲ 型

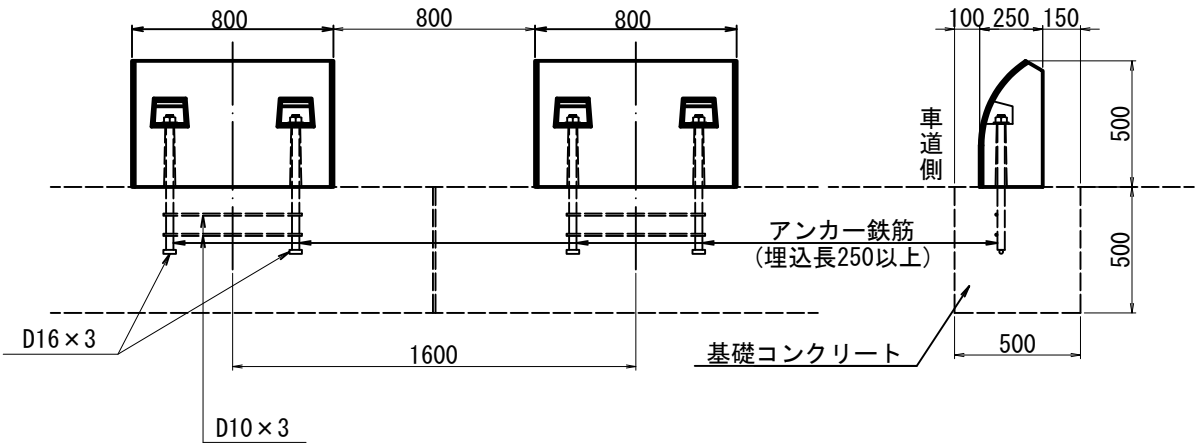


参考質量 (kg)
180

寸法許容差

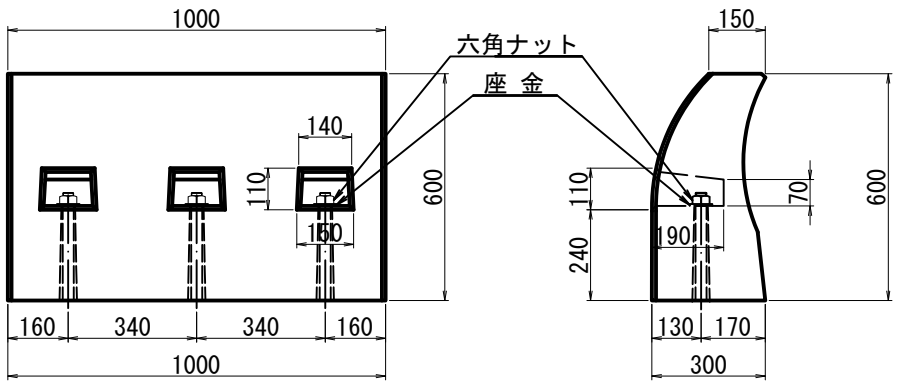
幅	高さ	長さ
±3	±3	±3

参考図表



延長1m当り	
コンクリート (m³)	型枠面積 (m²)
0.250	1.000

Ⅳ 型

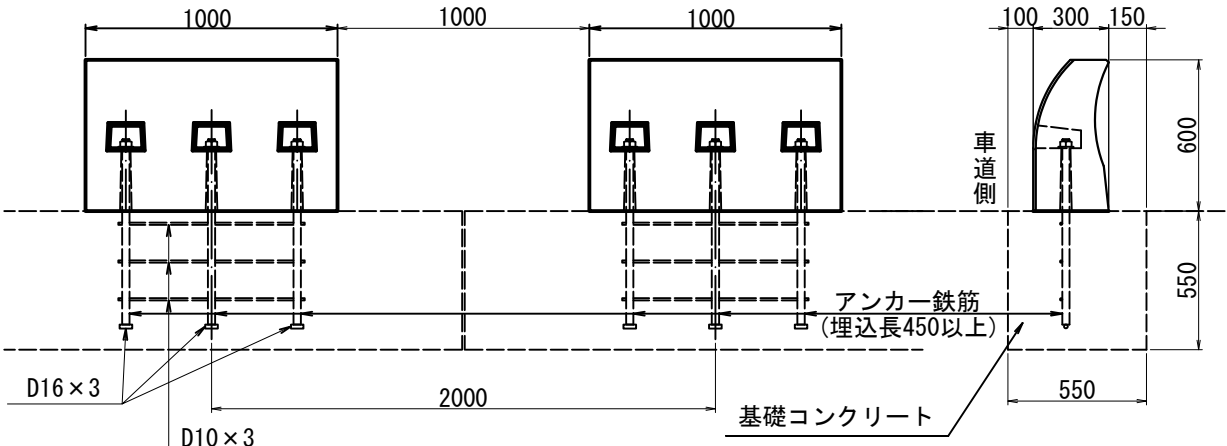


参考質量 (kg)
320

寸法許容差

幅	高さ	長さ
±3	±3	±5

参考図表



延長1m当り	
コンクリート (m³)	型枠面積 (m²)
0.303	1.100

特記事項

- ・Ⅰ型、Ⅱ型の詳細は、「積雪地におけるプレキャストコンクリート防護柵要領（北陸土木コンクリート製品技術協会）」による。
- ・ $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型の鉄筋は、SD295及びJIS G 3532に規定する鉄線とする。
- ・つり下げ孔を設ける等、施工に配慮することが出来る。

名
称

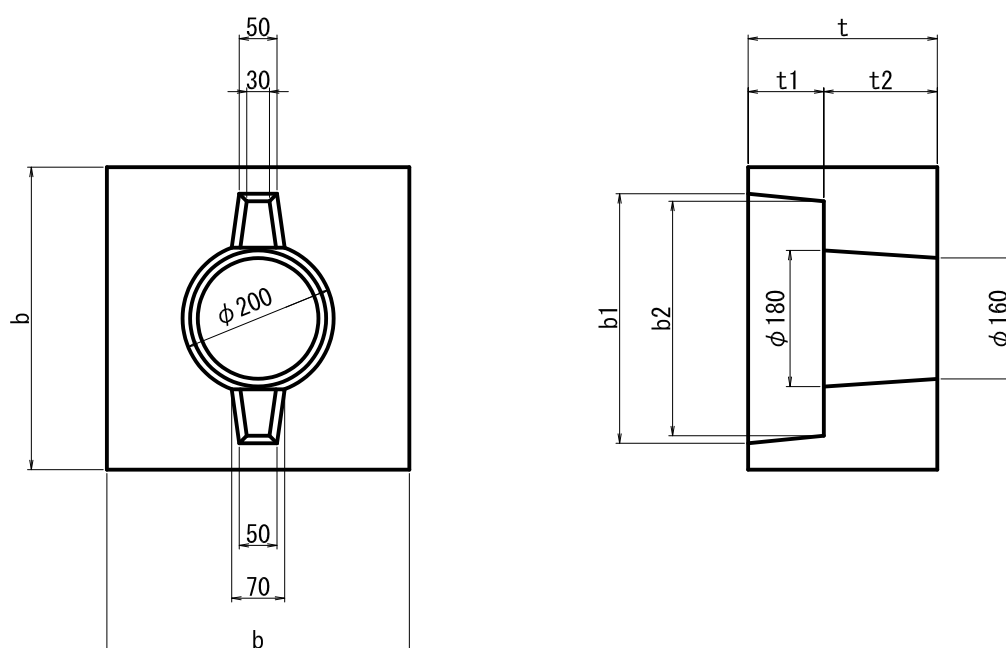
防護柵用根巻ブロック

標準設計番号

道－Ⅱ－1～11

工種記号

－

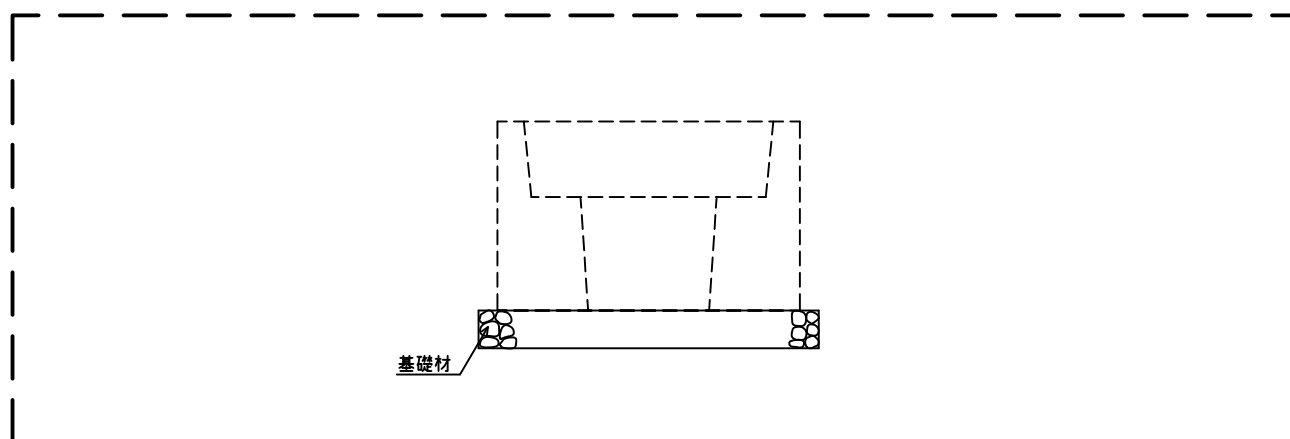


呼び名	寸 法 (mm)						参考質量 (kg)
	b	t	b1	b2	t1	t2	
I	400	250	330	310	100	150	75
Ⅱ	450	300	380	360	100	200	120
Ⅲ	500	350	430	410	100	250	178
許容差	±3		－				－

特記事項

- ・ 詳細は、「積雪地におけるプレキャストコンクリート防護柵要領（北陸土木コンクリート製品技術協会）」による。
- ・ $\sigma_{ck} = 24\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・ つり下げ孔を設ける等、施工に配慮することが出来る。

参考図



名
称

防護柵基礎

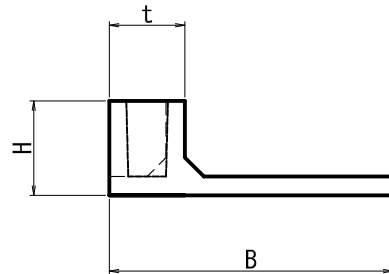
標準設計番号

—

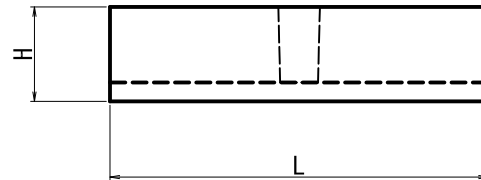
工種記号

—

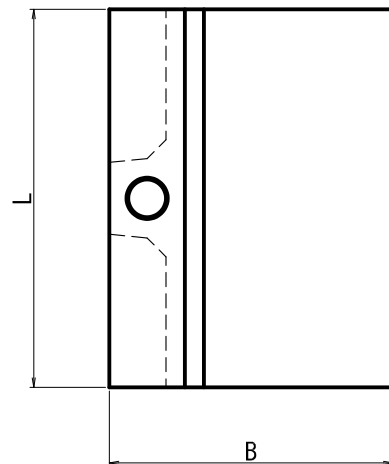
側 図



正 面



平面図



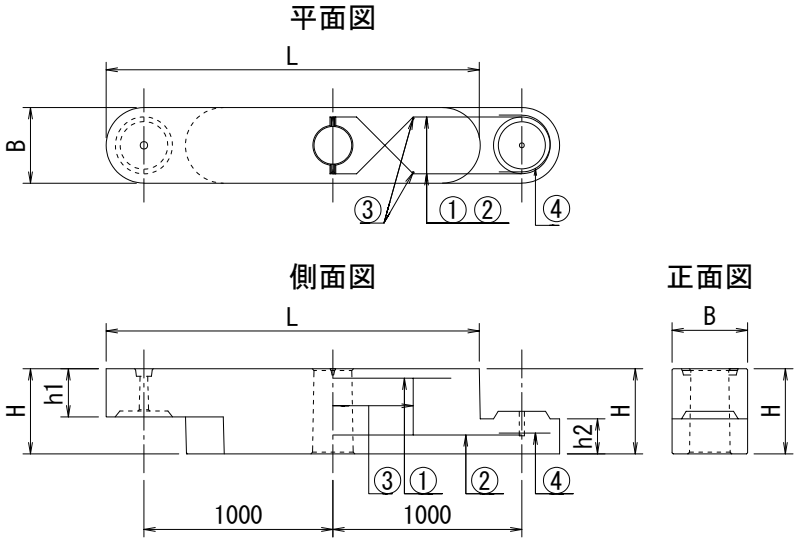
防護柵の 種別	寸 法 (mm)				支 柱 間 隔 (mm)	参 考 質 量 (kg)
	t	H	B	L		
A種～B, C種	300～400	480～700	800～2000	2000 (3000)	2000～4000	630～2235
許容差	—	±3		+5, -3	—	—

特記事項

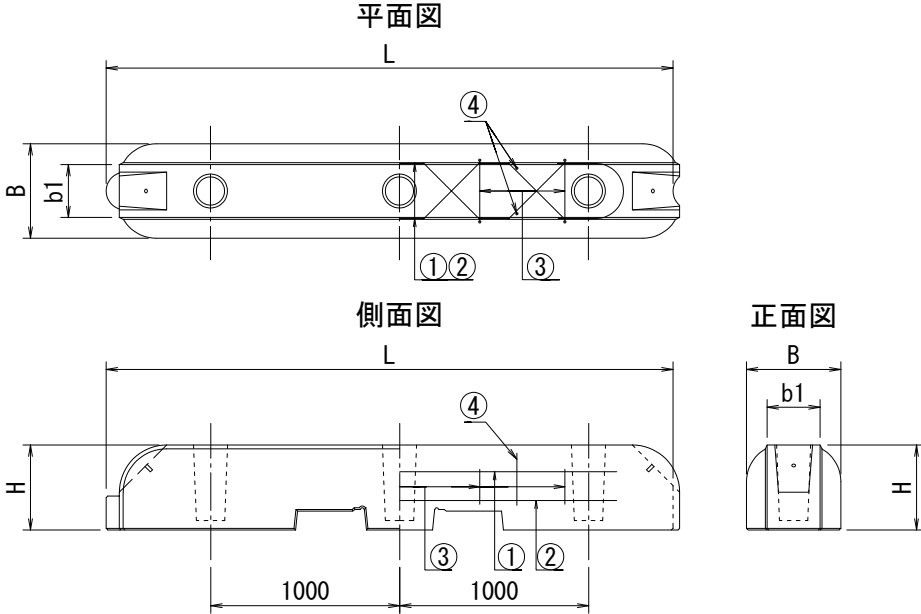
- ・ 詳細は、「道路土工－擁壁工指針（公益社団法人 日本道路協会）」及び「車両用防護柵標準仕様・同解説（公益社団法人 日本道路協会）」，「積雪地におけるプレキャスト防護柵要領（北陸土木コンクリート製品技術協会）」による。
- ・ $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・ 鉄筋は、SD295とする。
- ・ 防護柵基礎は、連結構造とする。

名称	置式防護柵基礎	標準設計番号	――
		工種記号	――

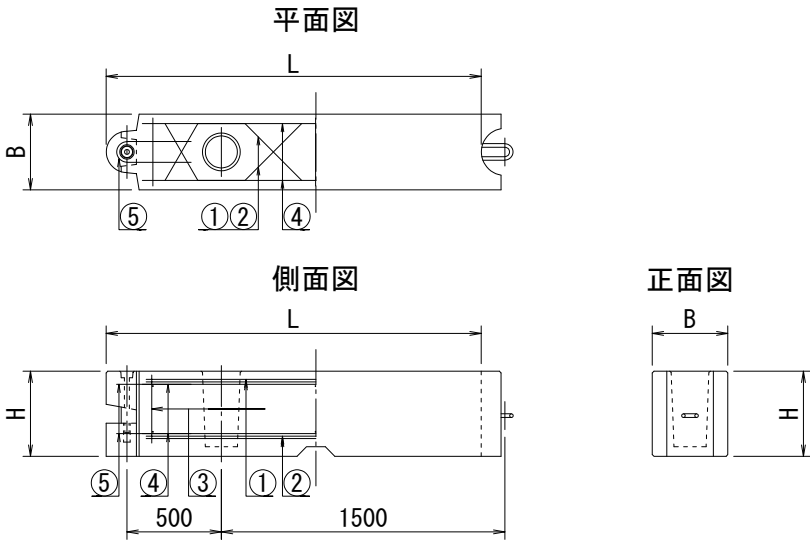
I 型



II 型



III 型



I 型

呼び名	寸 法 (mm)					鉄 筋								参考質量 (kg)
						①		②		③		④		
	B	H	h1	h2	L	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	
I -A	630	450	255	185	1965	D13	2	D13	2	D6	4	D6	2	1202
I -B	400	450	255	185	1975	D13	2	D13	2	D6	4	D6	2	778
許容差	± 3				± 6	-		-		-		-		

II 型

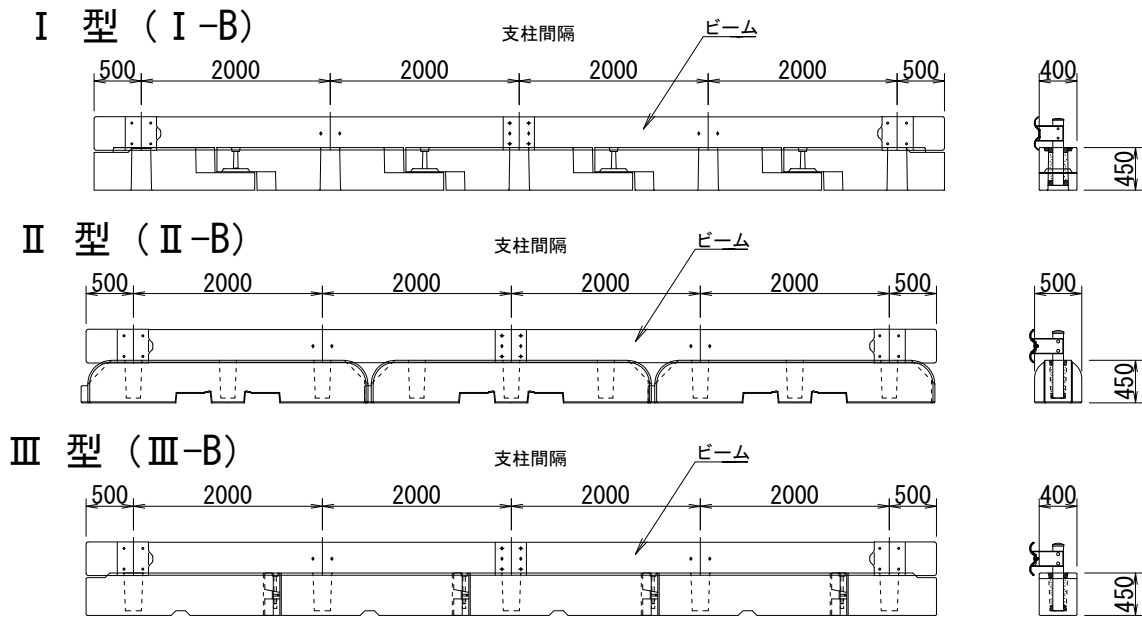
呼び名	寸 法 (mm)				鉄 筋								参考質量 (kg)
	B	H	b1	L	①		②		③		④		
Ⅱ-A	600	450	280	3000	D13	2	D13	2	D13	4	D10	4	1530
				2000	D13	2	D13	2	D13	2	D10	4	1010
				1000	D13	2	D13	2	-	-	D10	4	440
Ⅱ-B	500	450	280	3000	D13	2	D13	2	D13	4	D10	4	1280
				2000	D13	2	D13	2	D13	2	D10	4	850
				1000	D13	2	D13	2	-	-	D10	4	370
Ⅱ-C	400	450	280	3000	D13	2	D13	2	D13	4	D10	4	1050
				2000	D13	2	D13	2	D13	2	D10	4	700
				1000	D13	2	D13	2	-	-	D10	4	310
許容差	± 3			± 6	-		-		-		-		

III 型

呼び名	寸 法 (mm)			鉄 筋										参考質量 (kg)
				①		②		③		④		⑤		
	B	H	L	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	
Ⅲ-A	630	450	1985	D13	2	D13	2	D6	6	D13	4	D13	2	1200
Ⅲ-B	400	450	1985	D13	2	D13	2	D6	6	D13	4	D13	2	763
許容差	± 3		± 6	-		-		-		-		-		

- 特記事項
- ・ $\sigma_{ck} = 30\text{N/mm}^2$ 以上。
 - ・ 鉄筋は、SD295またはSD345とする。

参考図表



最小連結長一覧表 (安全率1.5)

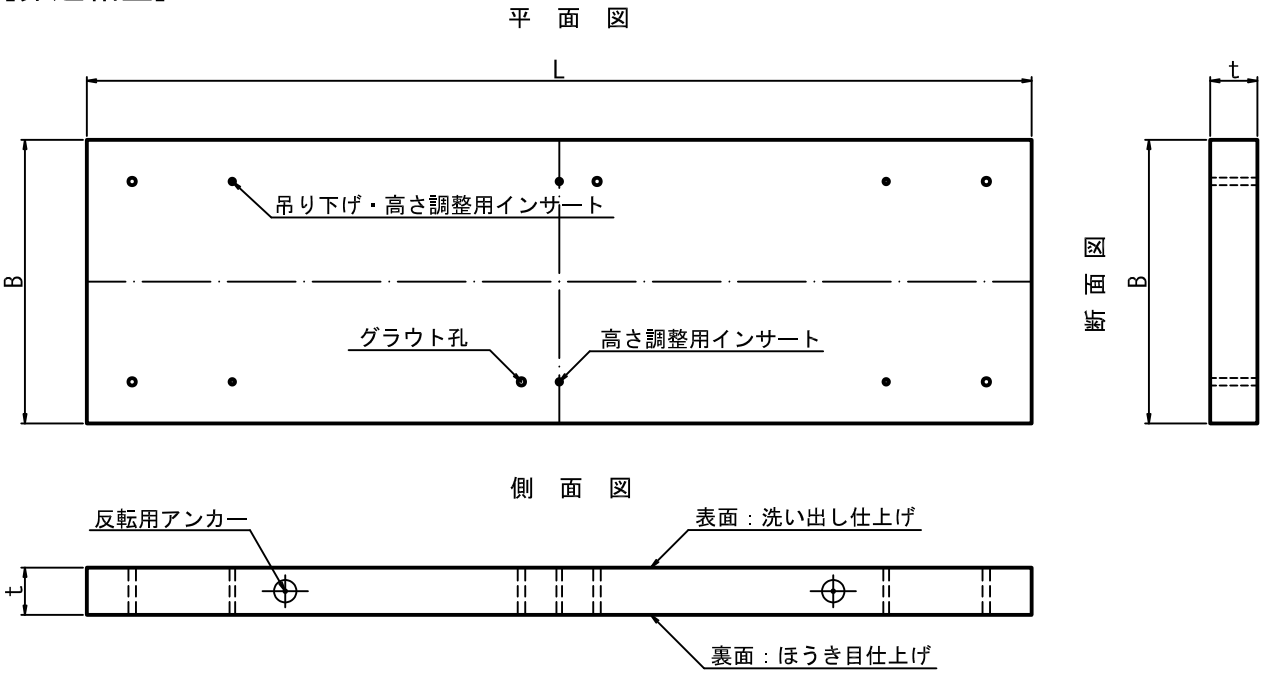
I 型	衝突条件	A種	B種	C種
衝突荷重	55kN	30kN		
I-A	26m	14m	14m	
I-B	—	33m	34m	

II 型	衝突条件	A種	B種	C種
衝突荷重	55kN	30kN		
II-A	32m	18m	18m	
II-B	44m	25m	25m	
II-C	65m	38m	38m	

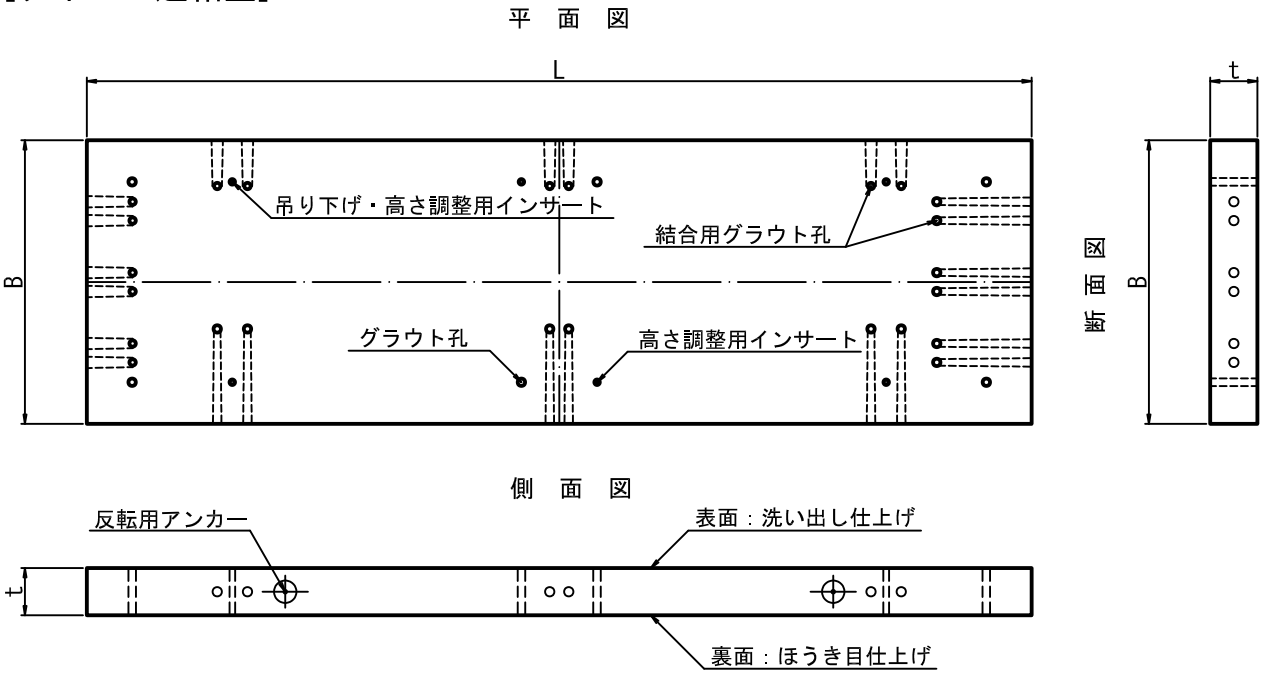
III 型	衝突条件	A種	B種	C種
衝突荷重	55kN	30kN		
III-A	27m	15m	15m	
III-B	—	36m	36m	

名称	コンクリート舗装版	標準設計番号	道－Ⅲ－3
		工種記号	PRC

[非連結型]



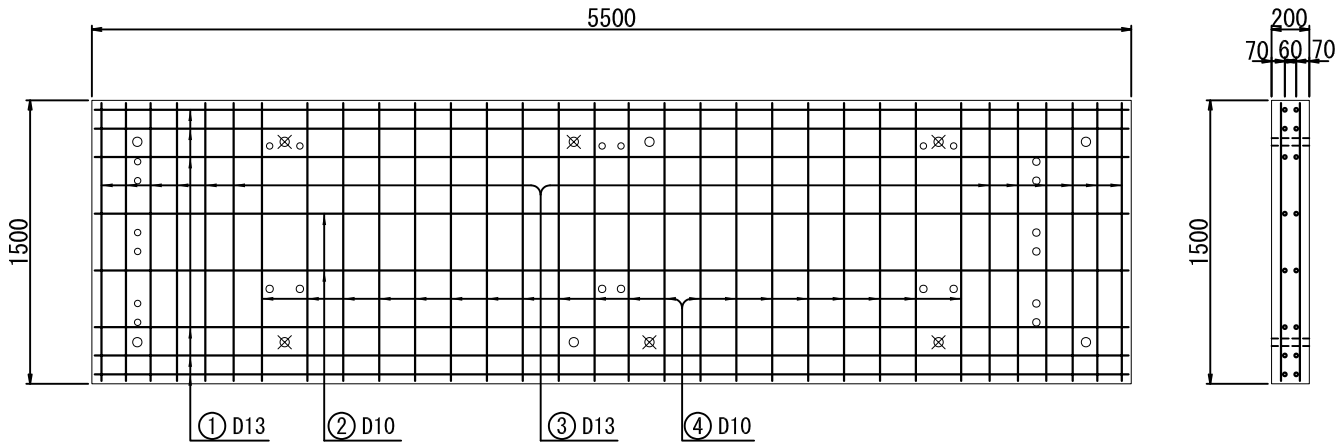
[タイバー連結型]



呼び名	寸 法 (mm)			参考質量 (kg)
	B	L	t	
1500	1500	5500	150	3090
			180	3710
			200	4120
			230	4740
			250	5150
			280	5770
許容差	±5		±3	—

呼び名	寸 法 (mm)			参考質量 (kg)
	B	L	t	
1700	1700	5000	150	3180
			180	3820
			200	4250
			230	4880
			250	5310
			280	5950
許容差	±5		±3	—

配筋図 (参考)

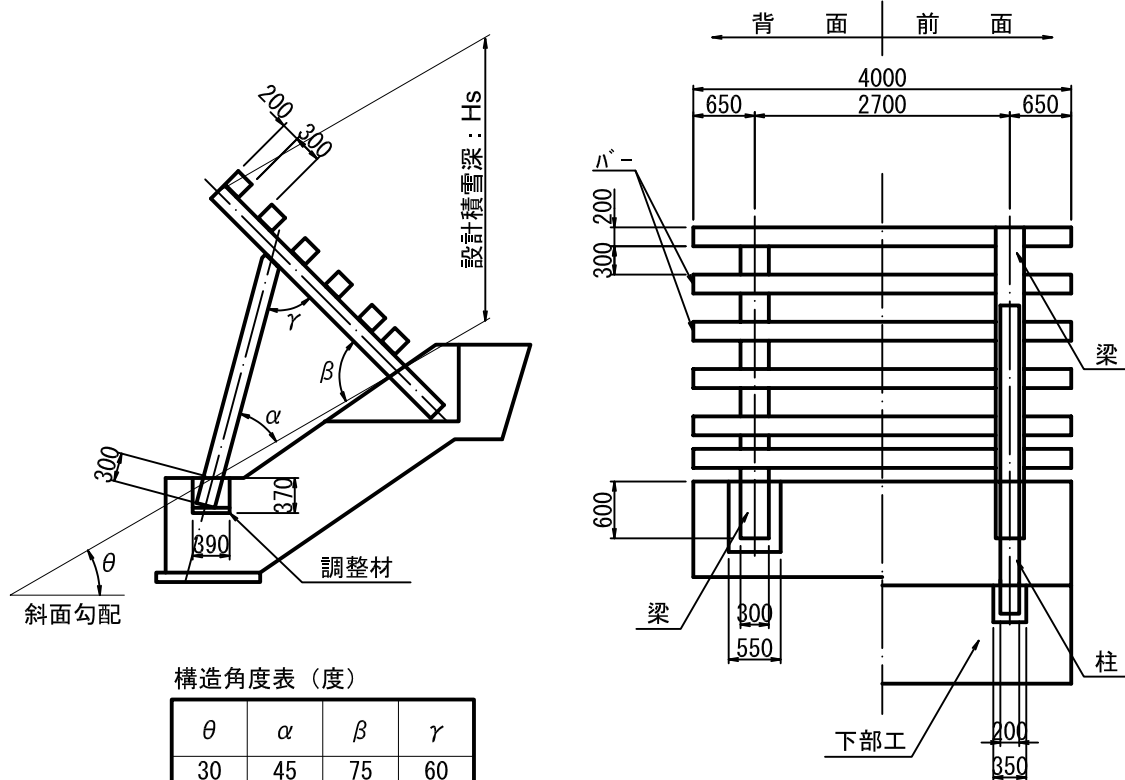


呼び名	鉄筋								適用条件（例）
	①		②		③		④		適用場所：明かり部（温度差：小） 交通量：N6(1,000～3,000台/日・方向) 曲げ強度：5.9 N/mm2 鉄筋比：0.41%以上
	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	
1500×5500×200	D13	12	D10	4	D13	24	D10	40	

特記事項

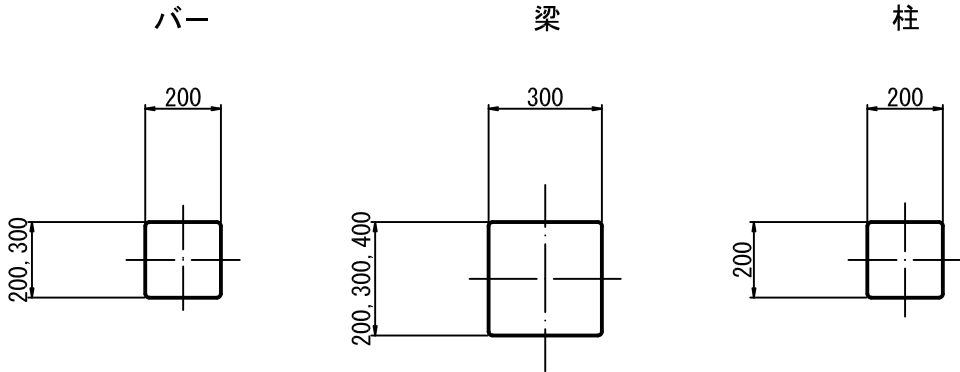
- ・詳細は、「リバーシブル型・融雪配管理設型プレキャストRC版舗装 設計施工マニュアル（プレキャストRC版舗装協会）」による。
- ・曲げ強度＝5.9 N/mm² 以上。
- ・鉄筋は SD295 とする。
- ・版厚，配筋については、適用条件（交通量・温度差等）により決定する。

名称	PC雪崩予防柵	標準設計番号	道－VI－5
		工種記号	SB－P



構造角度表（度）

θ	α	β	γ
30	45	75	60
35	42.5	77.5	60
40	40	80	60
45	37.5	82.5	60
50	35	85	60

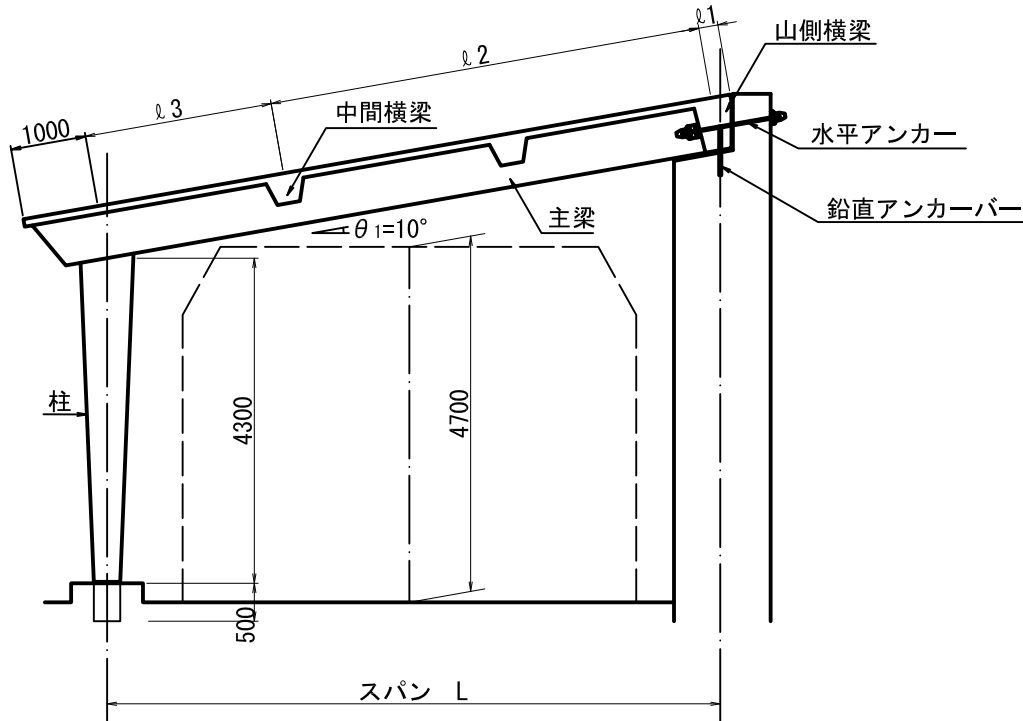


部材選定表

斜面勾配 (度)	グライ ド係数	部材	敷 計 積 雪 深 (m)					斜面勾配 (度)	グライ ド係数	部材	敷 計 積 雪 深 (m)								
			3.0	3.5	4.0	4.5	5.0				3.0	3.5	4.0	4.5	5.0				
30	1.2	バー	200×200					35	1.5	バー	200×200								
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300						
	1.3	バー	200×200						1.6	バー	200×200								
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300						
	1.6	バー	200×200						2.0	バー	200×200								
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300						
	1.8	バー	200×200						2.3	バー	200×200								
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300						
	2.0	バー	200×200						2.5	バー	200×200			200×300					
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300		300×400				
2.4	バー	200×200					3.0	バー	200×200			200×300							
	梁	300×200		300×300				梁	300×200		300×300		300×400						
2.6	バー	200×200					3.3	バー	200×200			200×300							
	梁	300×200		300×300				梁	300×200		300×300		300×400						
3.2	バー	200×200					4.0	バー	200×200			200×300							
	梁	300×200		300×300				梁	300×200		300×300		300×400						
40	1.8	バー	200×200					45	1.8	バー	200×200								
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300						
	2.0	バー	200×200						2.0	バー	200×200			200×300					
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300						
	2.4	バー	200×200			200×300			2.4	バー	200×200			200×300					
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300		300×400				
	2.7	バー	200×200			200×300			2.7	バー	200×200			200×300					
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300		300×400				
	3.0	バー	200×200			200×300			3.0	バー	200×200			200×300					
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300		300×400				
	3.6	バー	200×200			200×300			3.6	バー	200×200			200×300					
		梁	300×200		300×300					梁	300×200		300×300		300×400				
	3.9	バー	200×200			200×300			3.9	バー	200×200			200×300					
		梁	300×300			300×400				梁	300×300			300×400					
	4.8	バー	200×200		200×300				4.8	バー	200×300			適用外					
		梁	300×300		300×400		適用外			梁	300×300		300×400		適用外				
50	1.8	バー	200×200				200×300		50	1.8	バー	200×200				200×300			
		梁	300×200			300×300					梁	300×200			300×300				
	2.0	バー	200×200					200×300		2.0	バー	200×200					200×300		
		梁	300×200				300×300				梁	300×200				300×300			
	2.4	バー	200×200				200×300			2.4	バー	200×200				200×300			
		梁	300×200			300×300					梁	300×200			300×300			300×400	
	2.7	バー	200×200				200×300			2.7	バー	200×200				200×300			
		梁	300×200			300×300					梁	300×200			300×300			300×400	
	3.0	バー	200×200				200×300			3.0	バー	200×200				200×300			
		梁	300×200			300×300					梁	300×200			300×300			300×400	
	3.6	バー	200×200					200×300		3.6	バー	200×200					200×300		
		梁	300×200				300×300				梁	300×200				300×300			300×400
	3.9	バー	200×300					適用外		3.9	バー	200×300					適用外		
		梁	300×200				300×300				梁	300×200				300×300			300×400
	4.8	バー	200×300				適用外			4.8	バー	200×300				適用外			
		梁	300×300			300×400					適用外	梁	300×300			300×400			適用外

名称	PCスノーシェッド	標準設計番号	道－VI－7
		工種記号	SS

横断図



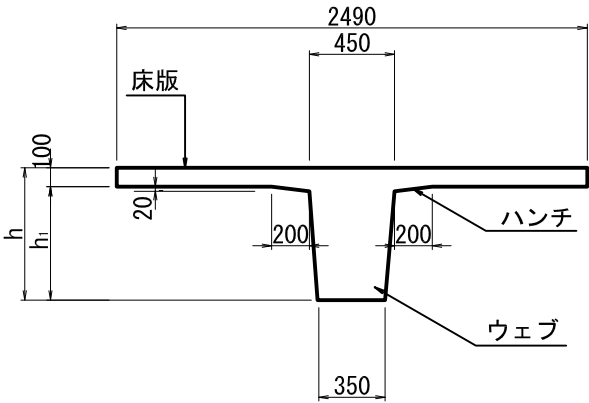
寸法表

記号	スパン L (m)					
	8	9	10	11	12	13
φ1 (mm)	175+h×tan θ ₁					
φ2 (mm)	2@3000 =6000	3@3000 =9000	3@3000 =9000	3@3000 =9000	4@3000 =12000	4@3000 =12000
φ3 (mm)	2123	139	1154	2170	185	1200

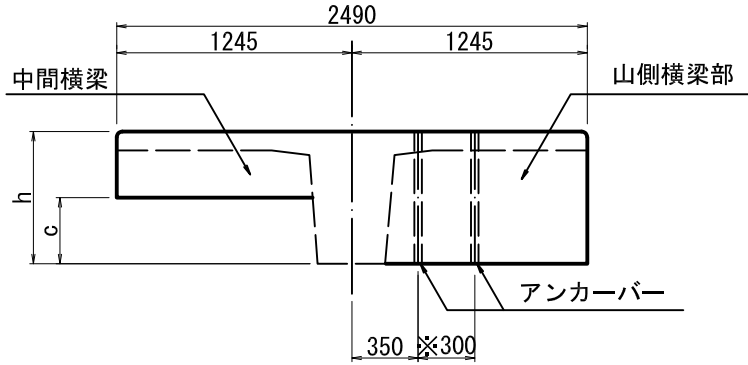
主梁・柱選定表

積雪深 Hs (m) (単位重量 γ_s (kN/m ³))	項目	スパン L (m)						
		8	9	10	11	12	13	
1.0 ($\gamma_s=3.50$)	構造タイプ	S108	S109	S110	S111	S112	S113	
	使用部材	Bs50-Cs50				Bs60-Cs60		
2.0 ($\gamma_s=3.50$)	構造タイプ	S208	S209	S210	S211	S212	S213	
	使用部材	Bs50-Cs50		Bs60-Cs60			Bs70-Cs70	
3.0 ($\gamma_s=3.50$)	構造タイプ	S308	S309	S310	S311	S312	S313	
	使用部材	Bs50-Cs50	Bs60-Cs60		Bs70-Cs70		Bs80-Cs80	
4.0 ($\gamma_s=3.50$)	構造タイプ	S408	S409	S410	S411	S412	S413	
	使用部材	Bs60-Cs60		Bs70-Cs70		Bs80-Cs80		
5.0 ($\gamma_s=3.83$)	構造タイプ	S508	S509	S510	S511	S512	S513	
	使用部材	Bs60-Cs60	Bs70-Cs70		Bs80-Cs80		Bs90-Cs90	
6.0 ($\gamma_s=4.17$)	構造タイプ	S608	S609	S610	S611	S612	適用外	
	使用部材	Bs70-Cs70		Bs80-Cs80		Bs90-Cs90		
7.0 ($\gamma_s=4.50$)	構造タイプ	S708	S709	S710	S711			
	使用部材	Bs70-Cs70	Bs80-Cs80		Bs90-Cs90			

主梁断面図



主梁断面図
中間横梁部・山側横梁部



※は外梁のみで中梁には設けない

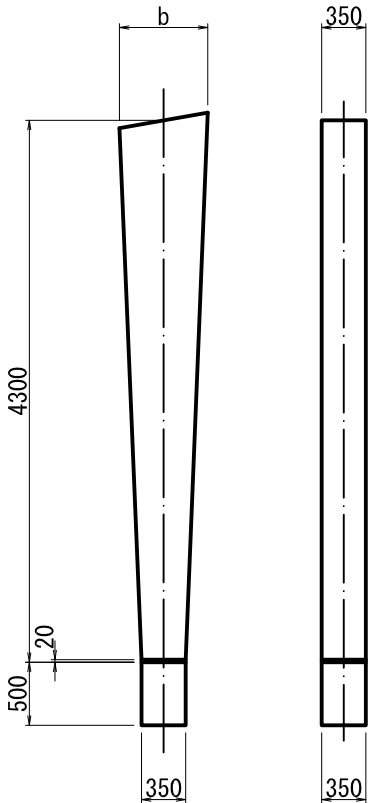
主梁寸法表

タイプ名	h (mm)	h ₁ (mm)	C (mm)	
			中間横梁	山側横梁
Bs-50	500	400	150	0
Bs-60	600	500	250	0
Bs-70	700	600	350	0
Bs-80	800	700	400	0
Bs-90	900	800	500	0

特記事項

- 詳細は「道路防雪施設マニュアル(社団法人 北陸建設弘済会)」による。
- σ_{ck}=60N/mm² 以上。
- PC鋼材は SWPR7BL 及び SWPR19L とする。
- 鉄筋は SD295 または SD345 とする。

柱断面図

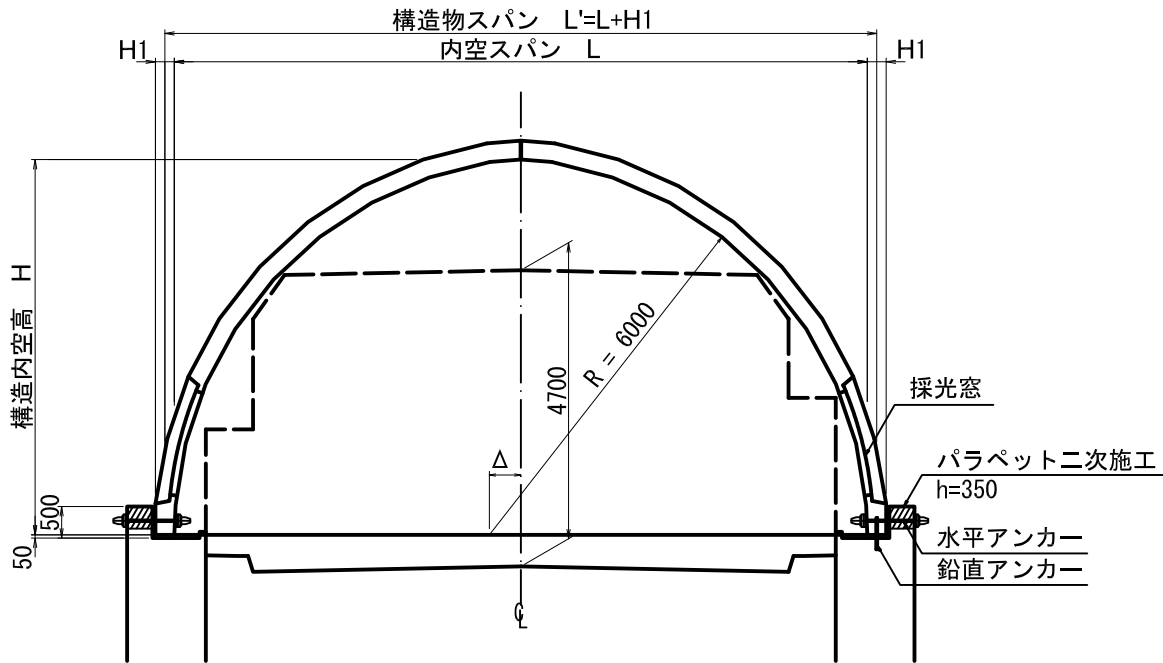


柱寸法表

タイプ名	Cs-50	Cs-60	Cs-70	Cs-80	Cs-90
柱頭巾 b (mm)	500	600	700	800	900

名 称	PCスノーシェルター	標準設計番号	道－VI－8
		工種記号	SR

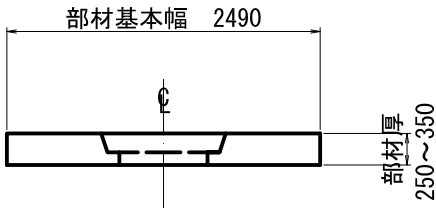
横断図



寸法表

記号	スパン L (m)							
	8	9	10	11	12	13	14	15
H (mm)	5 650	5 787	5 914	5 958	6 000	6 000	6 000	6 000
Δ (mm)	2 000	1 500	1 000	500	0	0	0	0

部材断面図



部材選定表

積雪深 単位重量	項目	スパン L (m)									
		8	9	10	11	12	13	14	15		
1.0 ($\gamma s=3.50$)	構造タイプ	S108	S109	S110	S111	S112	S113	S114	S115		
	使用部材	M25-4-10(Ⅰ)					M25-6-10(Ⅰ)	M30-4-10(Ⅰ)			
2.0 ($\gamma s=3.50$)	構造タイプ	S208	S209	S210	S211	S212	S213	S214	S215		
	使用部材	M25-4-10(Ⅰ)				M25-6-10(Ⅰ)	M30-4-10(Ⅰ)	M30-6-10(Ⅰ)	M30-6-12(Ⅰ)		
3.0 ($\gamma s=3.50$)	構造タイプ	S308	S309	S310	S311	S312	S313				
	使用部材	M25-4-10(Ⅰ)			M25-6-10(Ⅰ)	M30-4-10(Ⅰ)	M30-4-12(Ⅰ)				
4.0 ($\gamma s=3.50$)	構造タイプ	S408	S409	S410	S411	S412	S413				
	使用部材	M25-4-10(Ⅰ)		M25-6-10(Ⅰ)	M30-4-10(Ⅰ)		M30-6-12(Ⅰ)				
5.0 ($\gamma s=3.83$)	構造タイプ	S508	S509	S510	S511	S512	S513				
	使用部材	M25-4-10(Ⅰ)	M25-6-10(Ⅰ)	M30-4-10(Ⅰ)	M30-4-12(Ⅰ)	M30-6-12(Ⅰ)	M35-6-10(Ⅰ)				
6.0 ($\gamma s=4.17$)	構造タイプ	S608	S609	S610	S611	S612					
	使用部材	M25-6-10(Ⅰ)	M30-4-10(Ⅱ)	M30-4-12(Ⅱ)	M30-6-12(Ⅰ)	M35-6-10(Ⅰ)					
7.0 ($\gamma s=4.50$)	構造タイプ	S708	S709	S710	S711						
	使用部材	M30-6-10(Ⅱ)			M35-6-12(Ⅱ)						

(使用部材タイプの記号説明)

表現例 **M25** - **4** - **10** (**Ⅰ**)

下縁側鉄筋
(Ⅰ タイプ:10-D13, Ⅱ タイプ:12-D16, Ⅲ タイプ:12-D19, Ⅳ タイプ:10-D19)

上縁側鉄筋本数
(使用鉄筋径:M25タイプ-D16, M30・M35タイプ-D19)

プレグラウトPC鋼材本数
(使用鋼材:M25タイプ-SWPR19L 1S19.3, M30・M35タイプ-SWPR19L 1S21.8)

部材厚
(M25一部材厚25cm, M30一部材厚30cm, M35一部材厚35cm)

特記事項

- ・ 詳細は「道路防雪施設マニュアル(社団法人 北陸建設弘済会)」による。
- ・ $\sigma_{ck}=60\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・ PC鋼材は SWPR19L とする。
- ・ 鉄筋は SD295 および SD345 とする。

名称

PCスノーキーパー

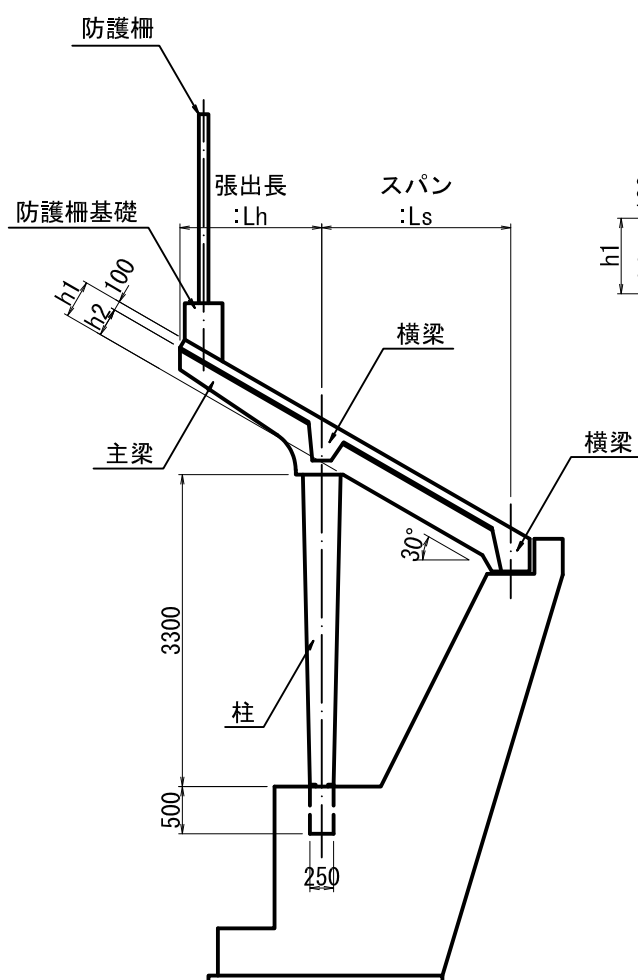
標準設計番号

-

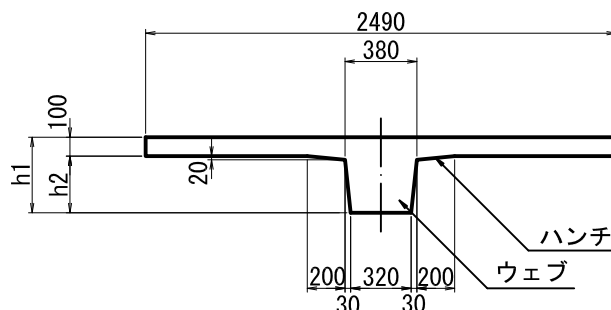
工種記号

-

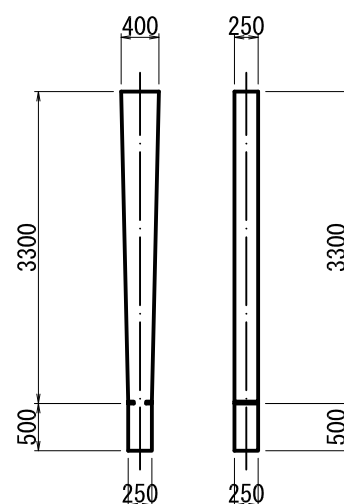
横断図



主梁断面図



柱断面図



寸法表

タイプ	Ls (mm)	Lh (mm)	h1 (mm)	h2 (mm)
S	2000	1500	400	300
M	2500	1500	400	300
L	3000	2000	500	400

寸法許容差

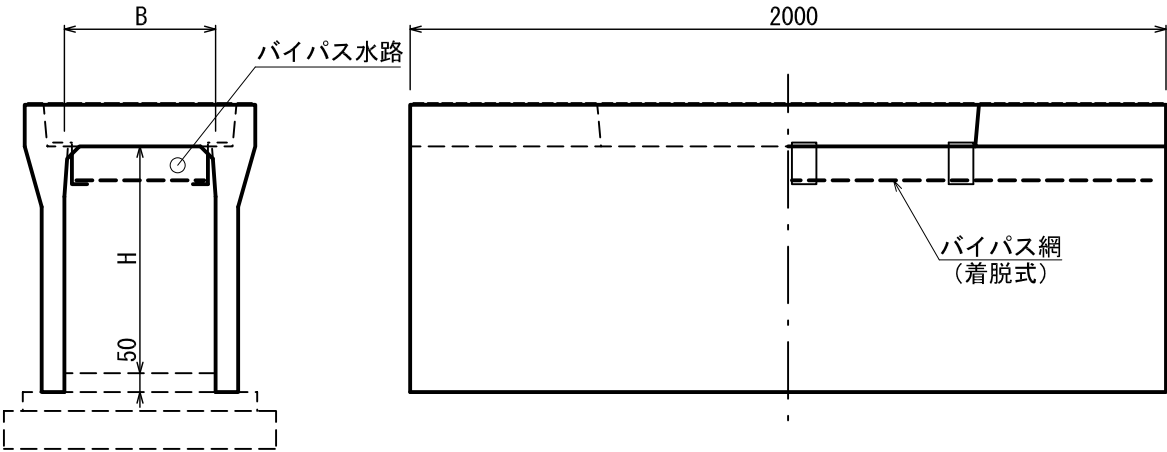
主梁	長さ	幅	高さ	厚さ
	± 10mm	± 5mm		
柱	柱長さ	幅	厚さ	根入れ長
	± 10mm	± 5mm		

特記事項

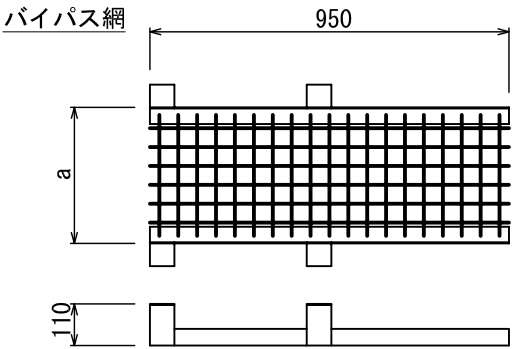
- ・ 設計は「道路防雪施設マニュアル(社団法人 北陸建設弘済会)」を参照する。
- ・ $\sigma_{ck}=60\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・ PC鋼材は SWPR7BL 及び SBPR930/1080 とする。
- ・ 鉄筋は SD295 または SD345 とする。

名 称	流雪溝	標準設計番号	－
		工種番号	－

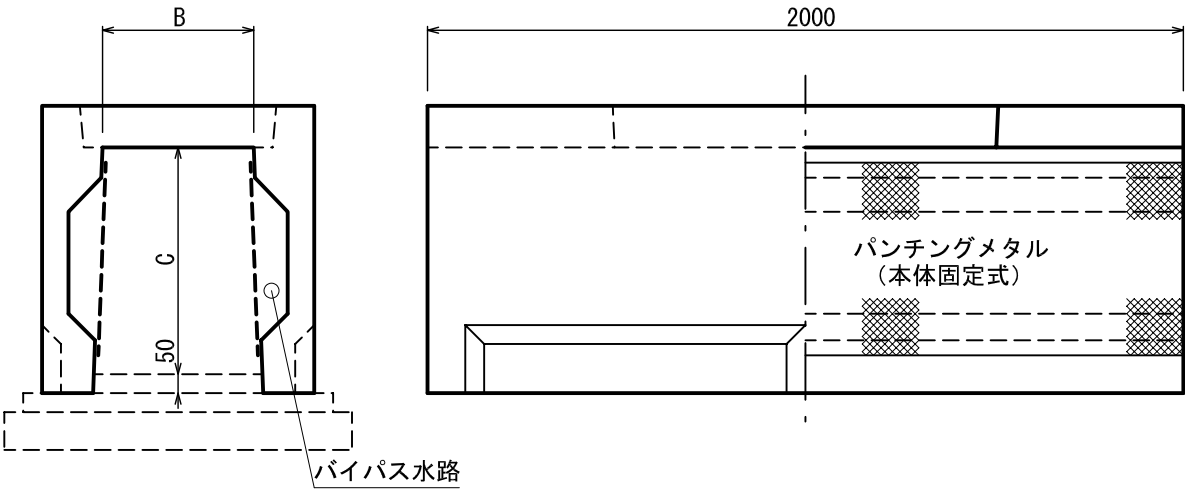
I 型 上部バイパス方式



B	H	a
400	400～1200	360
500	400～1400	460
600	400～1500	555



II 型 横バイパス方式

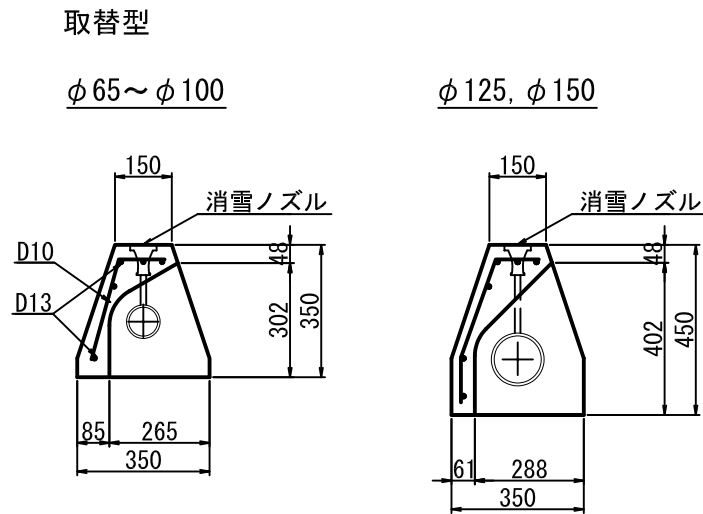
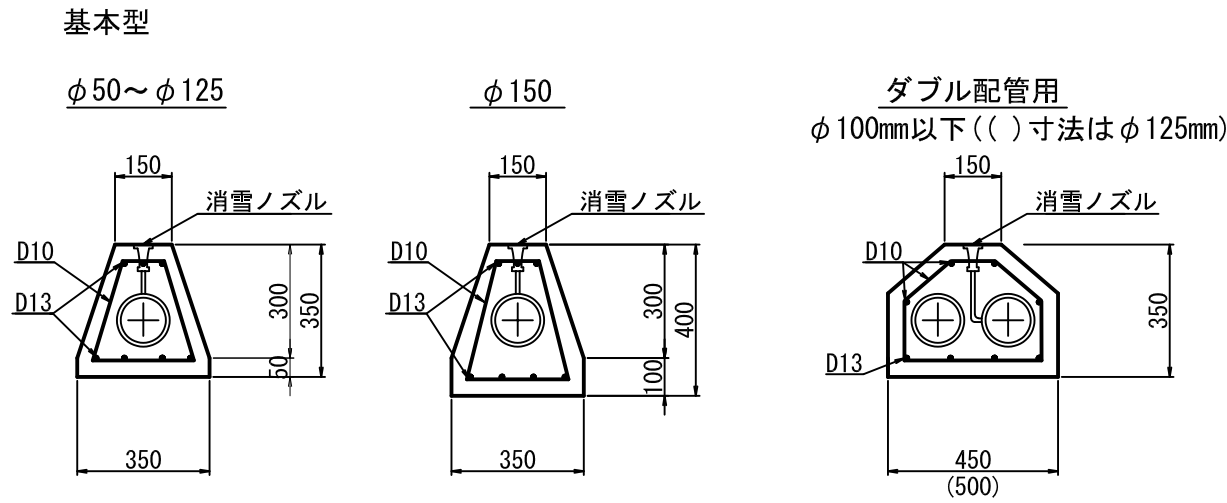


B	H
400	600～1000
500	700～1100
600	800～1200

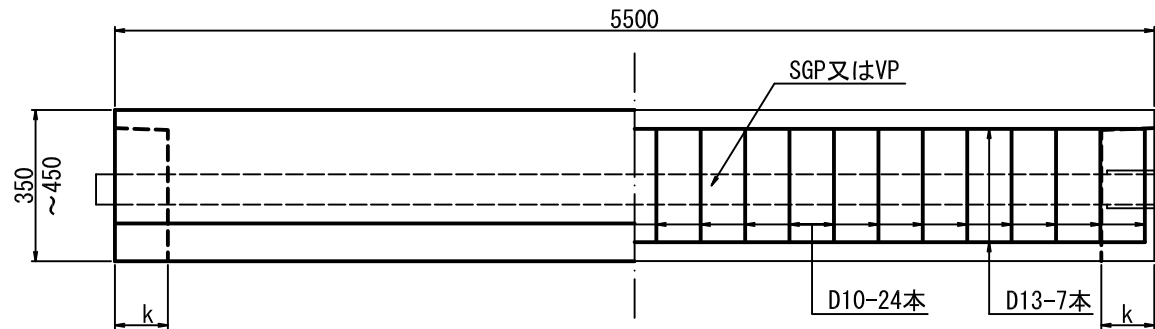
特記事項

- ・ $\sigma_{ck} = 30\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・ 鉄筋は SD295 及び JIS A 3532 に規定する普通鉄線又はコンクリート用鉄線とする。
- ・ 設計にあたっては、「流雪溝設計運営要領（建設省北陸地方建設局 1983）」、「道路防雪便覧（（社）日本道路協会 平成2年5月）」を参照のこと。
- ・ I、II 型の本体規格は、「自由勾配側溝」の設計資料を準用。
- ・ 一般的な蓋版として、コンクリート蓋、グレーチング蓋（鋼製格子蓋）、鋼製蓋（縞鋼板、パンチングメタル等）があり、安全性、耐久性、開閉の難易、及び使用場所などに応じて選択すること。
- ・ 投入口には、転落防止用鋼製十字枠を設けるものとする。

名称	消雪パイプ	標準設計番号	道－Ⅶ－2 道－Ⅶ－3
		工種記号	SMF－S SMF－W SMF－T



寸法許容差 (mm)		
高さ	幅	長さ
±3	±3	±5

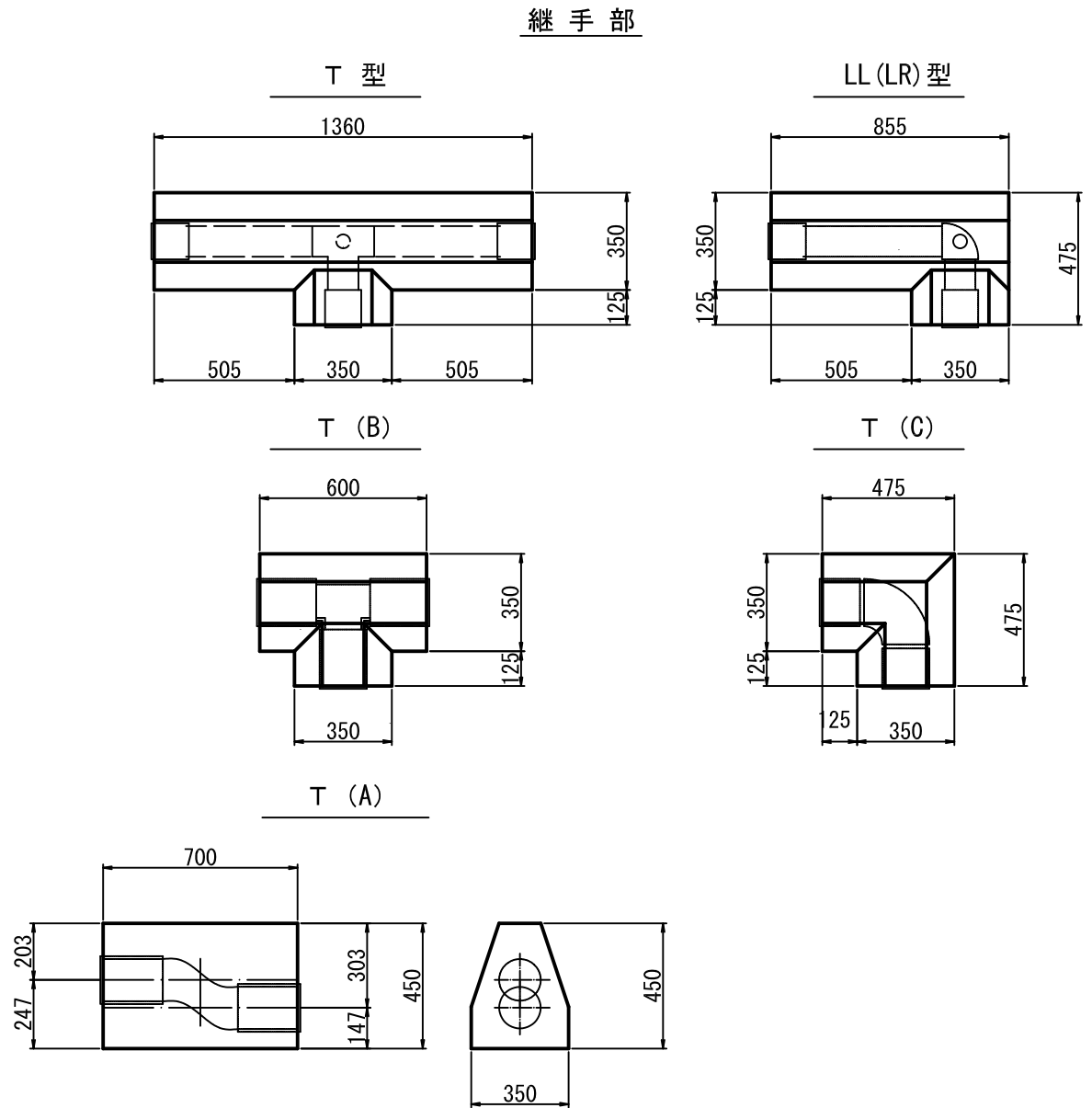


取替型
φ 65～φ100の場合、k=140
φ125～φ150の場合、k=170

参考質量 (Kg)		
呼び名	基本型	取替型
SGP 50A	1210	—
SGP 65A	1200	1160
SGP 80A	1185	1145
SGP100A	1150	1110
SGP125A	1100	1490
SGP150A	1275	1440

参考質量 (Kg)		
呼び名	基本型	取替型
VP 50	1190	—
VP 65	1165	1130
VP 75	1150	1110
VP 100	1105	1065
VP 125	1040	1435
VP 150	1205	1365

散水用ノズル取付位置	
I	920 1830 1830 920
II	680 1380 1380 1380 680
III	550 1100 1100 1100 1100 550

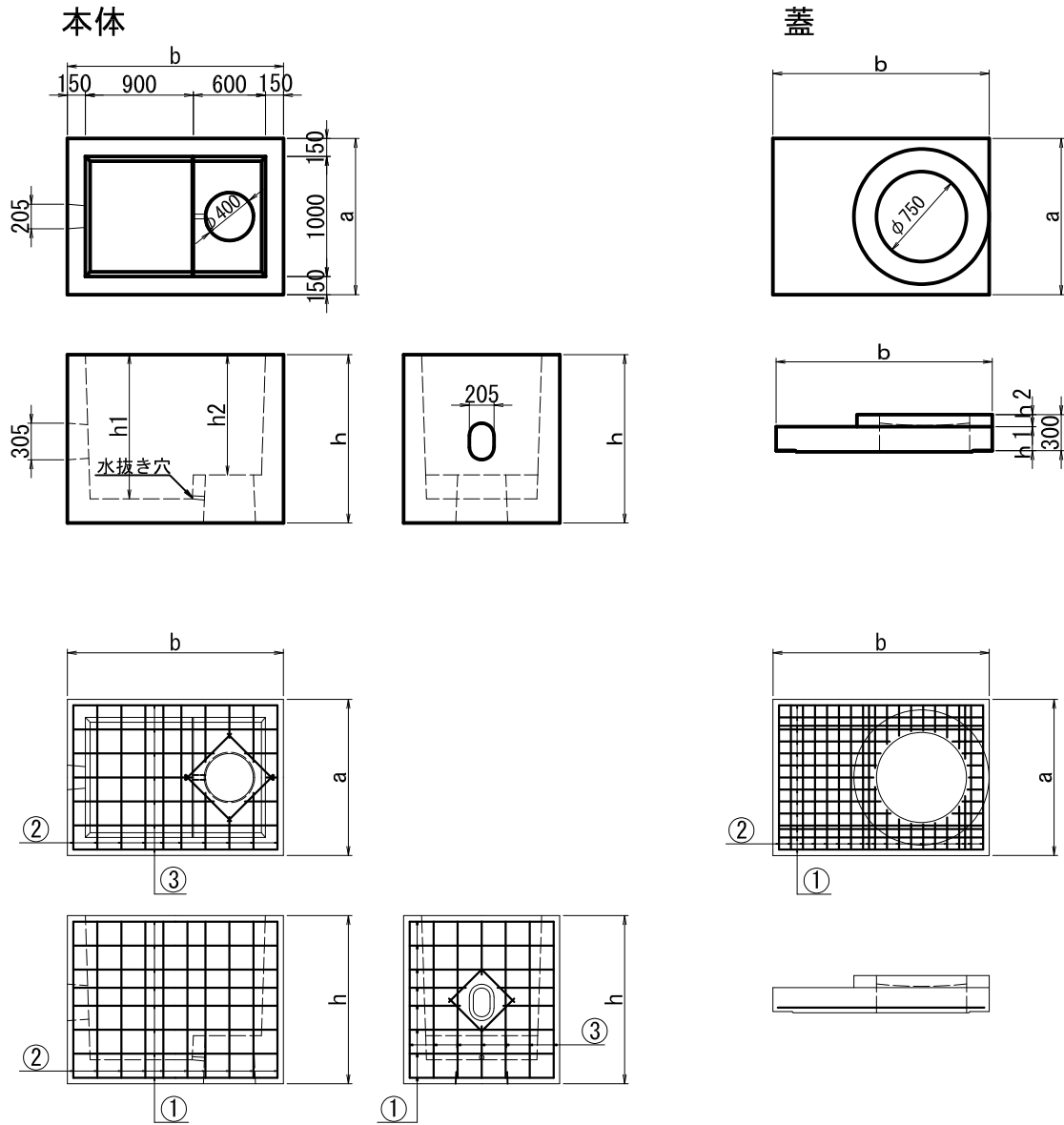


特記事項

- ・詳細は、「散水消雪施設設計施工・維持管理マニュアル(散水消雪施設設計施工マニュアル編集委員会)」による。
- ・シングル配管用は $\sigma \leq k=40N/mm^2$ 以上、ダブル配管用は $\sigma \leq k=45N/mm^2$ 以上。
- ・鉄筋は、SD295とする。
- ・継手ブロック T型, LL (LR) 型, T (A), T (B), T (C) も製作可能。
- ・吊り下げ孔を設ける等、施工に配慮することが出来る。

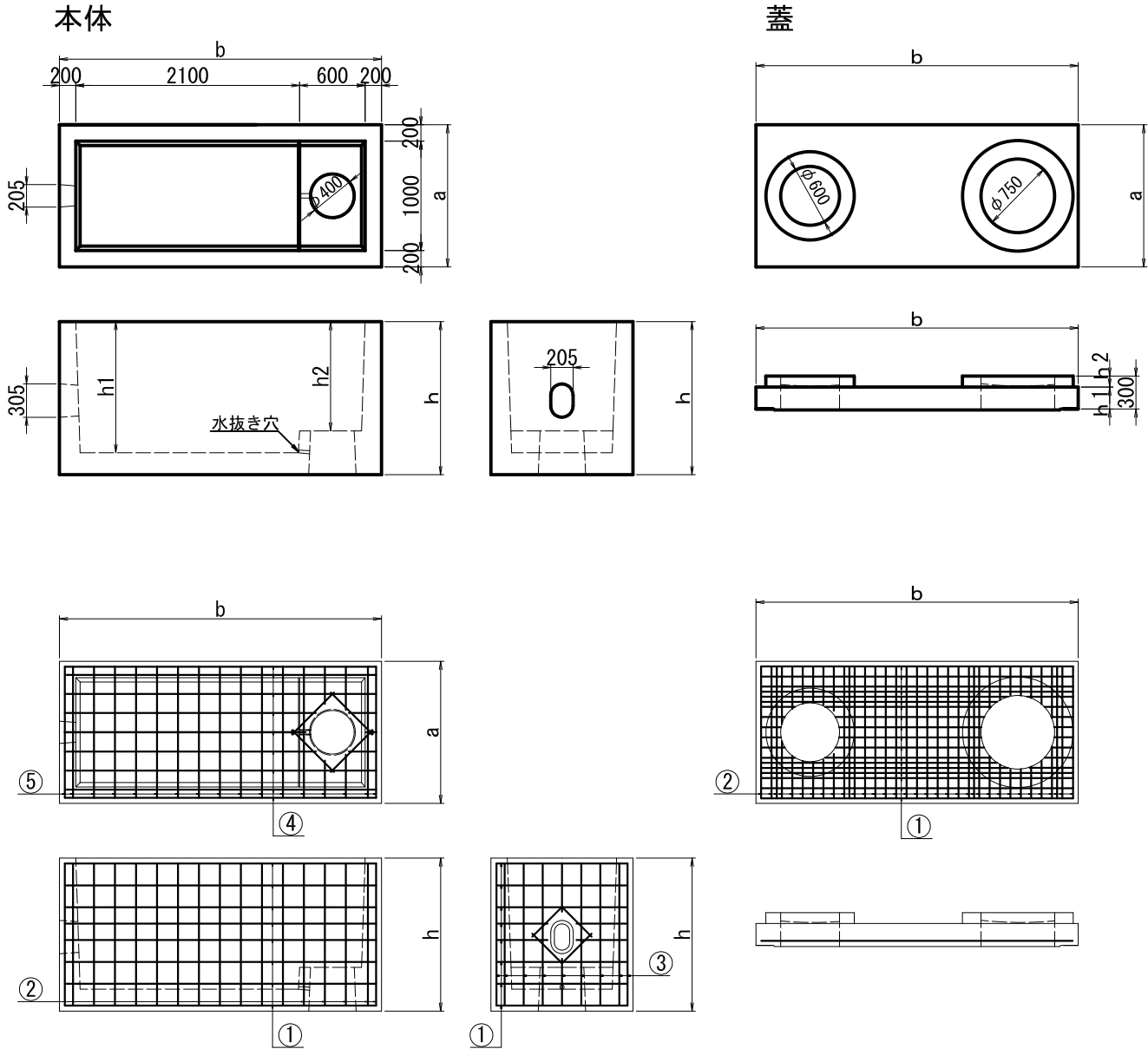
名 称	消雪用ポンプ室	標準設計番号	道－Ⅶ－6
		工種記号	SMF-P1, P2 PF, P3

標準タイプ



	寸 法 (mm)					鉄 筋						参 考 質 量 (kg)
						①		②		③		
	a	b	h	h1	h2	径	本数	径	本数	径	本数	
本 体	1300	1800	1400	1200	1000	D13	8	D13	10	D13	7	3930
蓋	1300	1800	—	200	100	D13	15	D13	20	—		1920
許容差	±3		±5	±3		—						—

流量計併設タイプ



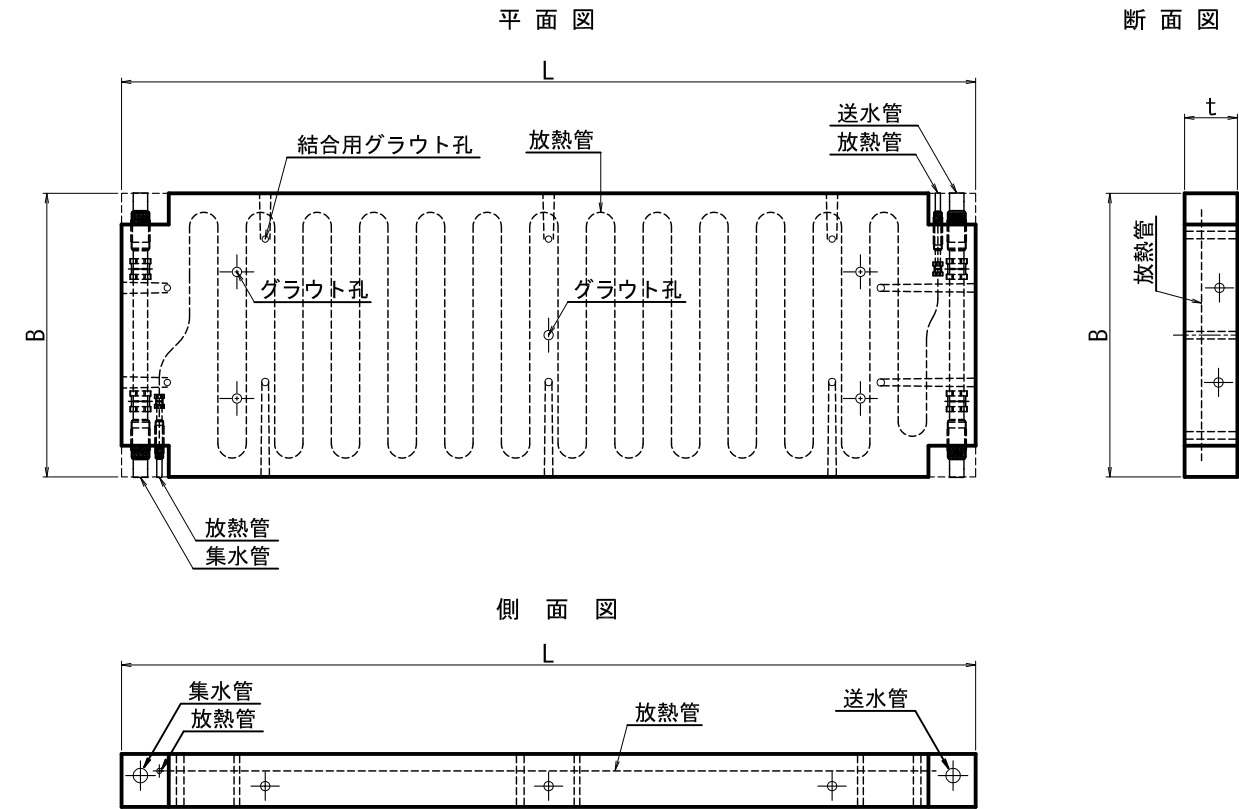
	寸 法 (mm)					鉄 筋										参 考 質 量 (kg)
						①		②		③		④		⑤		
	a	b	h	h1	h2	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	
本 体	1400	3100	1350	1200	1000	D16	8	D16	17	D16	9	D13	9	D13	17	6300
蓋	1400	3100	—	200	100	D13	18	D13	35	—		—		—		2170
許容差	±3		±5	±3		—										—

特記事項

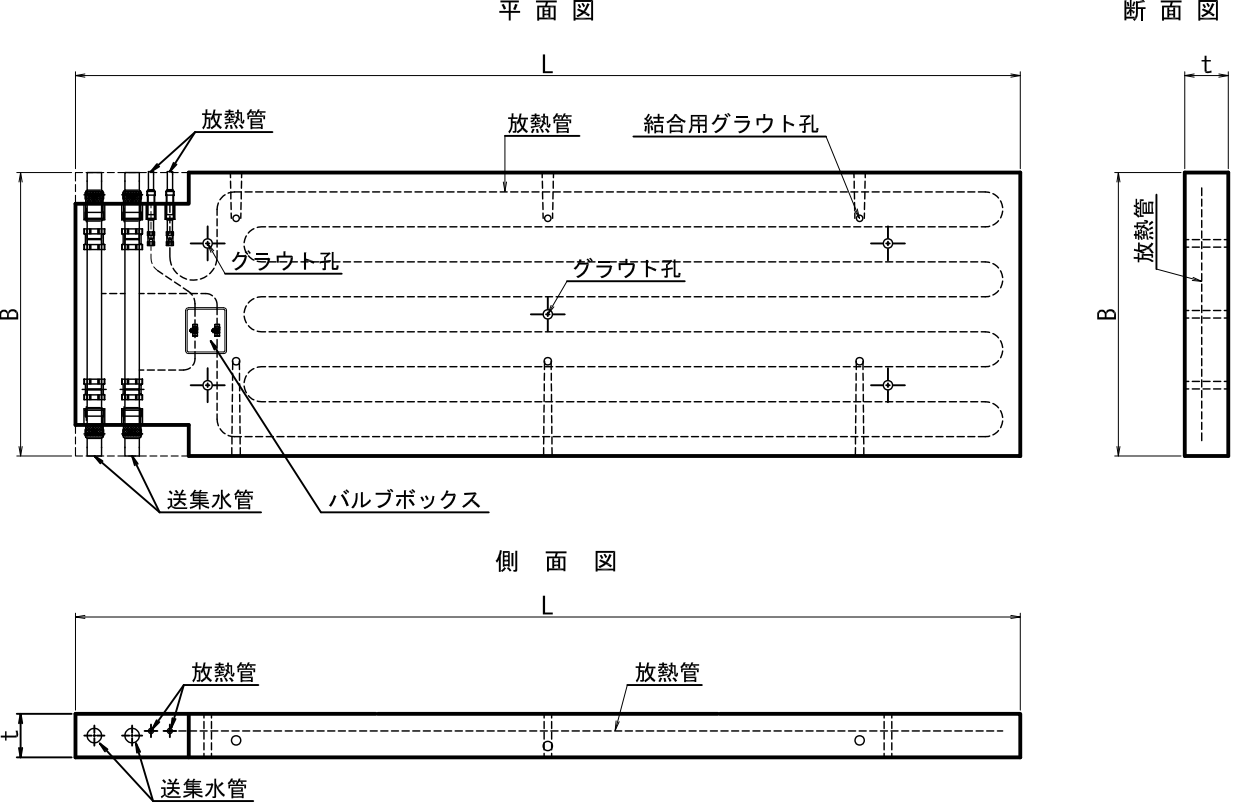
- ・ 詳細は、「散水消雪施設設計施工・維持管理マニュアル(散水消雪施設設計施工マニュアル編集委員会)」による。
- ・ $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・ 鉄筋は、SD345とする。

名 称	融雪舗装版	標準設計番号	道－Ⅶ－9
		工種記号	URC

タイプ1：送集水分離型

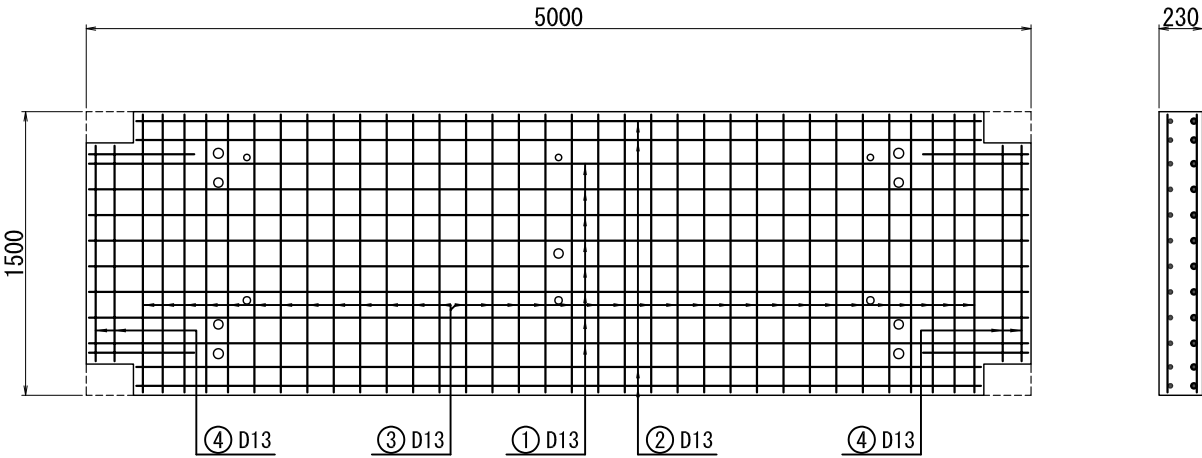


タイプ2：送集水併設型



※寸法の許容差は B, L=±5mm、t=±3mm

配筋図（参考）



呼び名	鉄筋								適用条件（例）
	①		②		③		④		適用場所：明かり部（温度差：大） 交通量：N6(1,000～3,000台/日・方向) 曲げ強度：5.9 N/mm2 鉄筋比：0.51%以上
	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	
1500×5000×230	D13	16	D13	8	D13	68	D13	8	

特記事項

- ・詳細は、「リバーシブル型・融雪配管埋設型プレキャストRC版舗装 設計施工マニュアル（プレキャストRC版舗装協会）」を参考にするものとする。
- ・形状寸法、配筋、放熱管配置形状は物件ごとに異なる。
- ・曲げ強度＝5.9N/mm²以上。（歩道の場合は、 σ_{ck} ＝30N/mm²以上。）
- ・鉄筋は SD295 とする。
- ・必要に応じて結合用グラウト孔を設ける。
- ・隅部は切欠きのない製品もある。
- ・版厚、配筋については、適用条件（交通量・温度差等）により決定する。

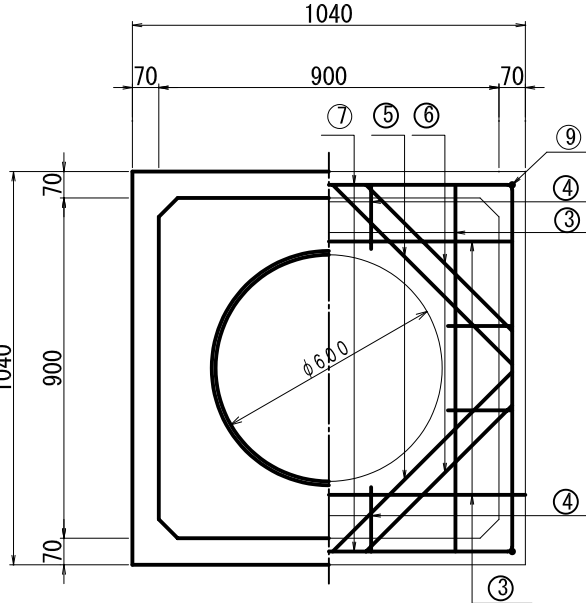
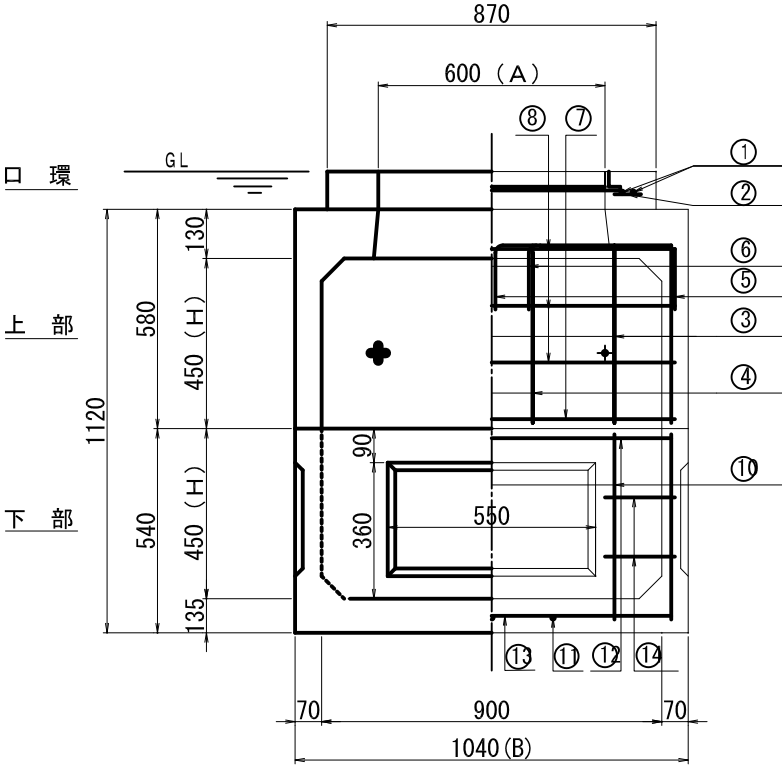
名称	情報ボックス(ハンドホール)	標準設計番号	道-VIII-1
		工種記号	HCM

ハンドホールA

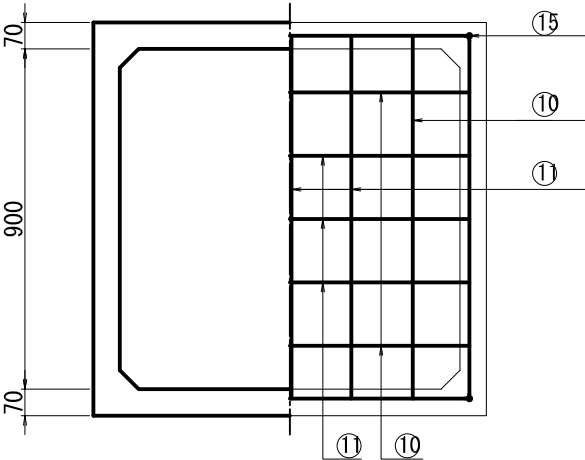
ハンドホールB

組立図

上部平面図

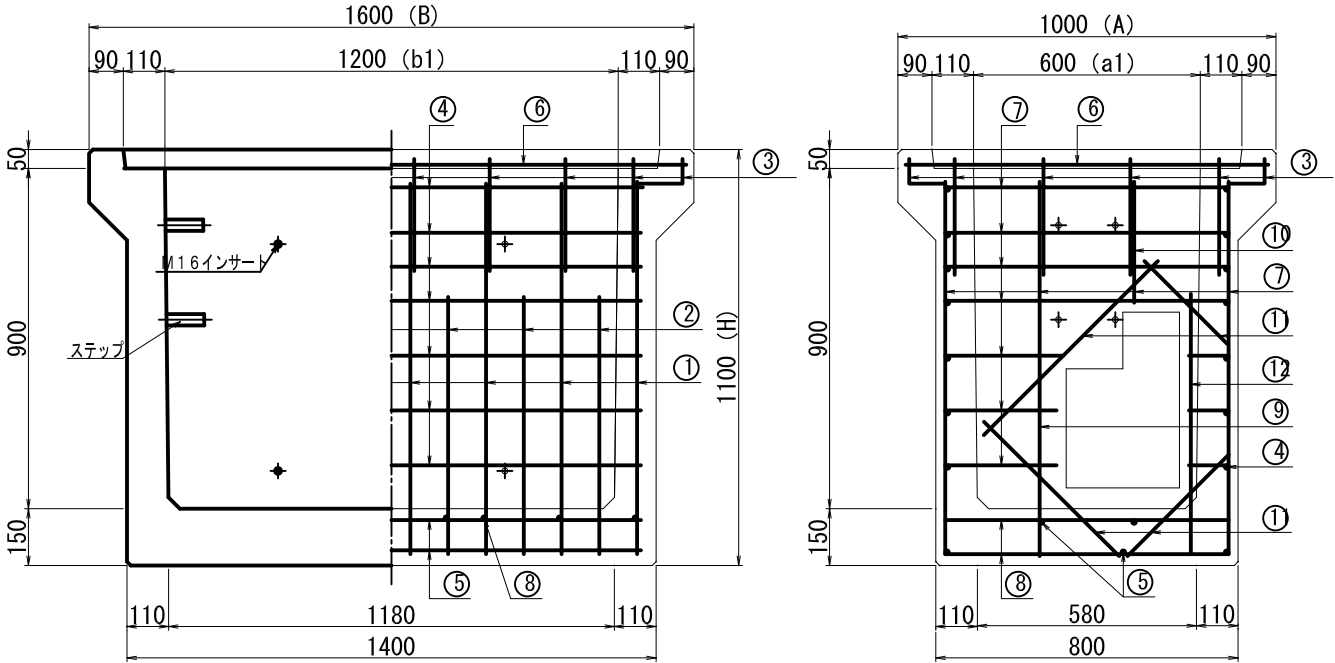


下部平面図



参考質量	上部	530kg
	下部	550kg
許容差	A・B・H	±3mm

番号	径	本数
①	D10	2
②	$\phi 5$	8
③	D10	4
④	D10	8
⑤	D13	4
⑥	D13	4
⑦	D13	1
⑧	D10	3
⑨	D10	4
⑩	D10	4
⑪	D10	6
⑫	D13	1
⑬	D10	1
⑭	D10	8
⑮	D10	4



参考質量	1530kg
許容差	A・a1・B・b1・H ±3mm

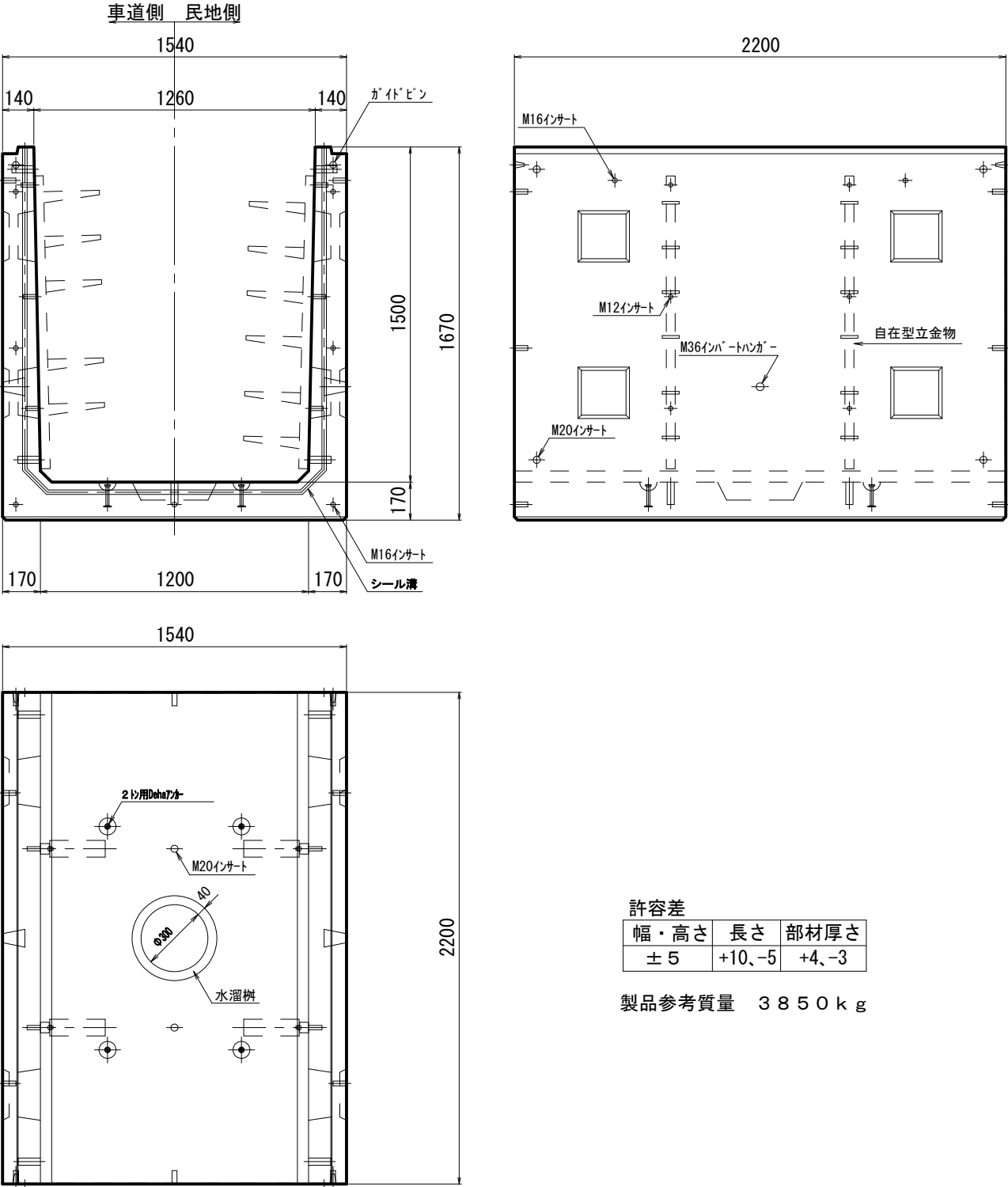
番号	径	本数
①	D10	8
②	D10	6
③	D10	24
④	D10	14
⑤	D10	7
⑥	D10	1
⑦	D10	14
⑧	D10	8
⑨	D10	2
⑩	D10	2
⑪	D10	8
⑫	D10	2

特記事項

- ・ $\sigma_{ck} = 3 \text{ ON/mm}^2$ 以上。
- ・ 鉄筋はSD295及びJIS A 3532に規定する普通鉄線又はコンクリート用鉄線（円形）とする。
- ・ 吊り下げ孔を設けるなど施工に配慮することができる。
- ・ 製品間の接合としてパッキン等を使用することができる。

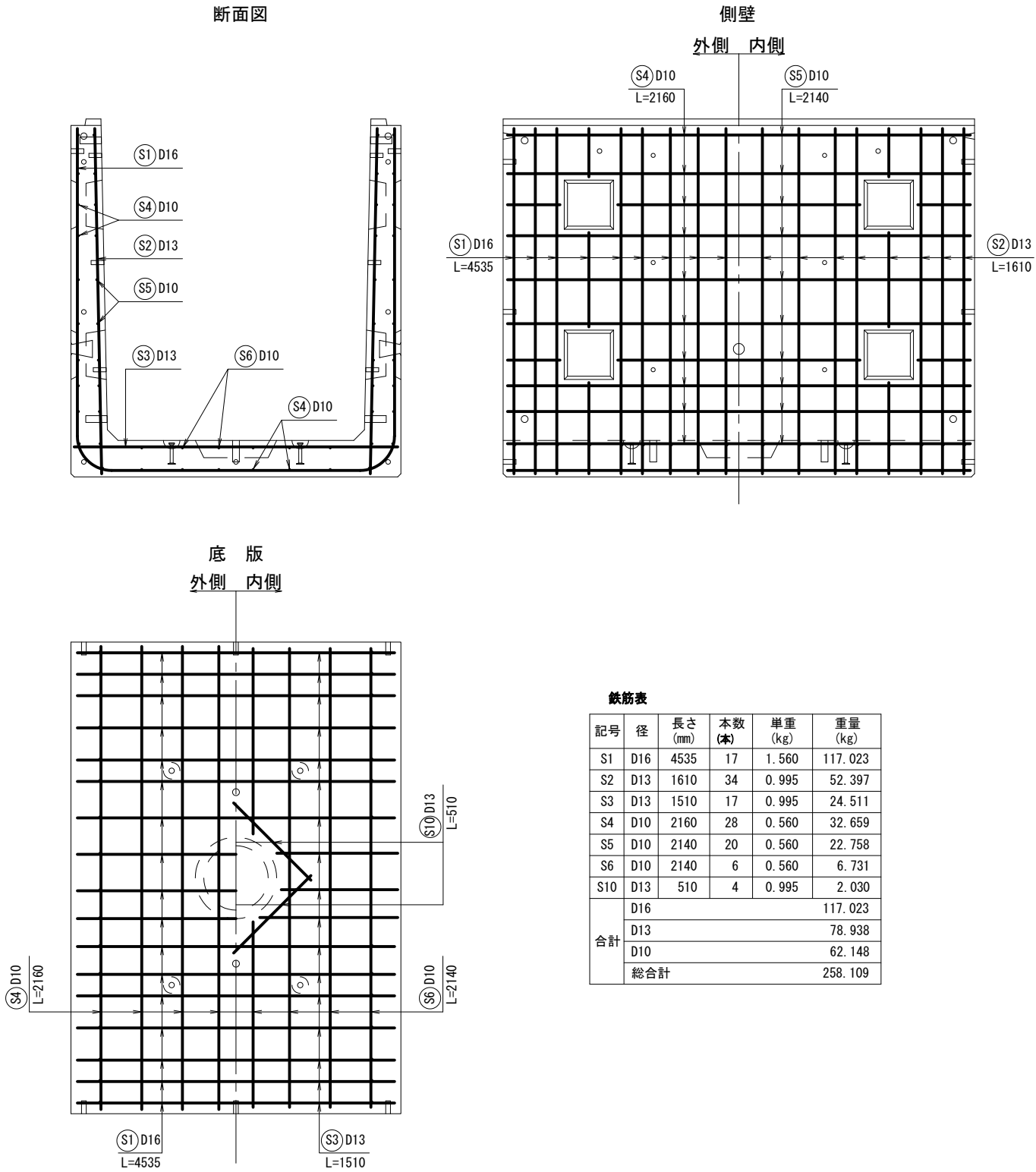
名称	電線共同溝（CCBOX）	標準設計番号	共－Ⅷ－2
		工種記号	CCBX

分岐接続部 I 型



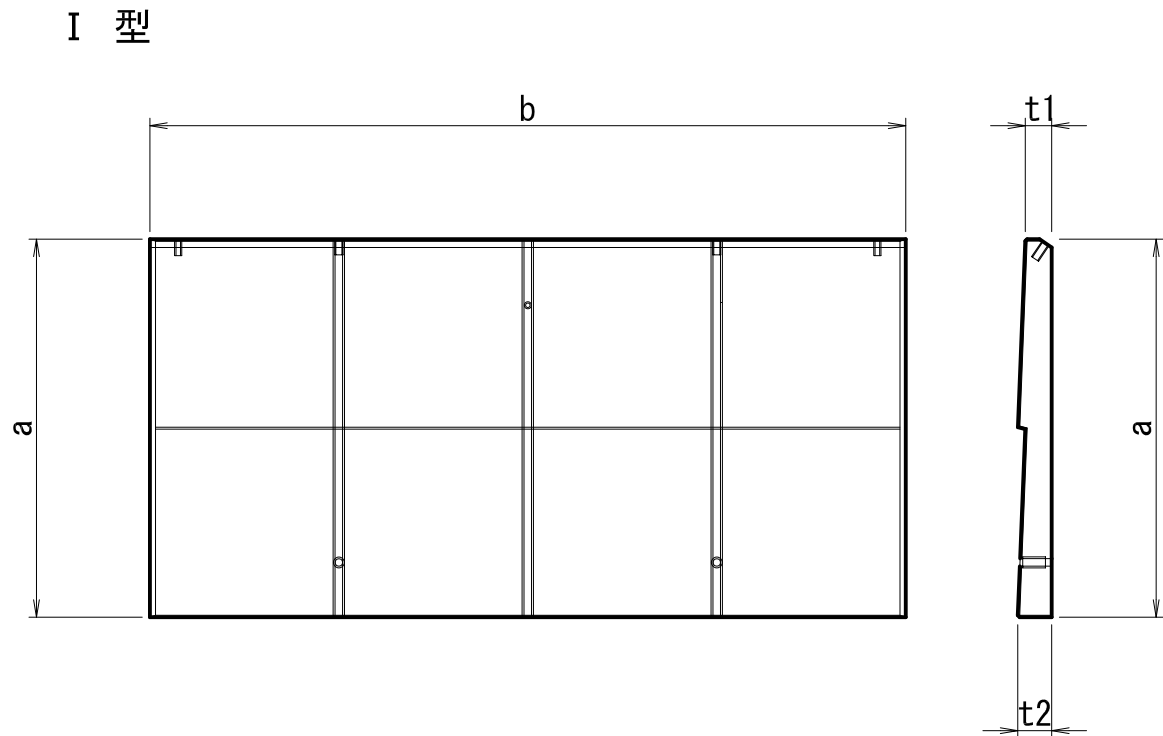
特記事項

- ・ 構造の詳細は以下による。
 - 電線共同溝マニュアル（案）
 - 電線共同溝マニュアル（案）改訂版
 - 電線共同溝（技術）マニュアル（改訂案）
- H12.11 建設省北陸地方建設局
 - H16.10 国土交通省北陸地方整備局
 - H27.10 北陸地方無電柱化協議会

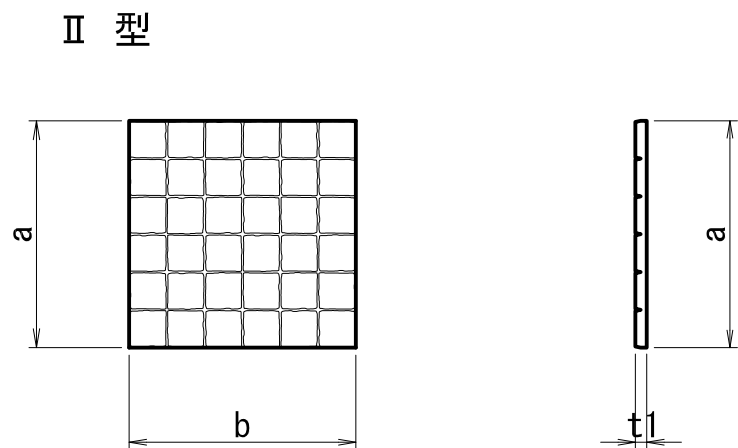


- ・ $\sigma_{ck} = 3 \text{ ON/mm}^2$ 以上。
- ・ 鉄筋はSD295及びJIS A 3532に規定する普通鉄線又はコンクリート用鉄線とする。
- ・ 桧には他に低圧分岐桧、横断桧、柱体接続桧、通信接続桧、特殊部Ⅱ型などがある。
- ・ それらの製品図はH16.10国土交通省北陸地方整備局 電線共同溝マニュアル（案）改訂版による。
- ・ 旧タイプ（4期）製品は電線共同溝マニュアル（案）（H12.11 建設省北陸地方建設局）による。

名 称	のり面防草パネル	標準設計番号	――
		工種記号	――

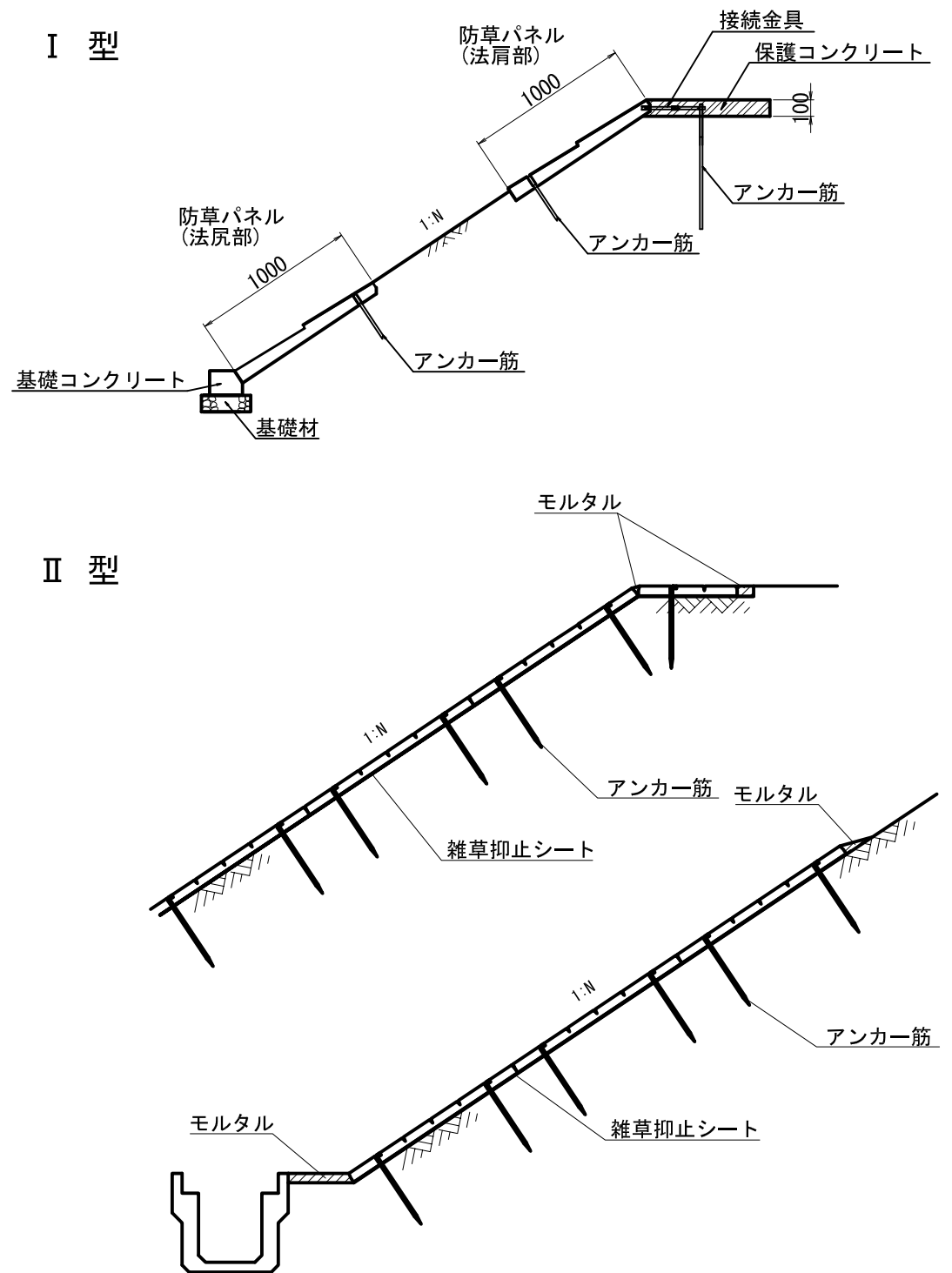


呼び名	寸 法 (mm)				参考質量 (kg)
	a	b	t1	t2	
I 型	1000	2000	70	90	375
許容差	±3	±3	±2	±2	-



呼び名	寸 法 (mm)				参考質量 (kg)
	a	b	t1	t2	
II 型	600	600	30	-	24
許容差	±5	±5	±3	±3	-

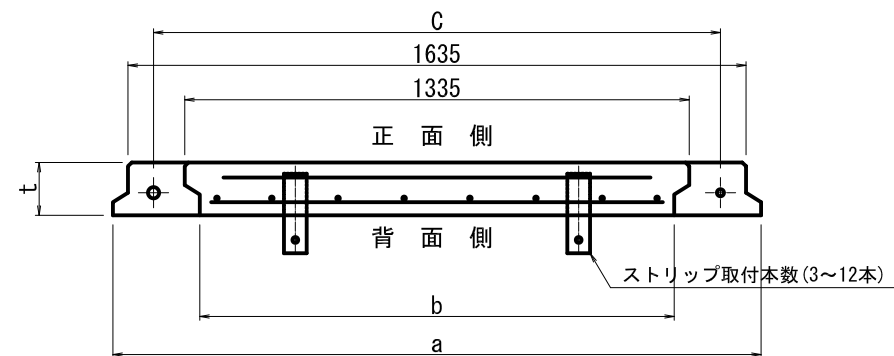
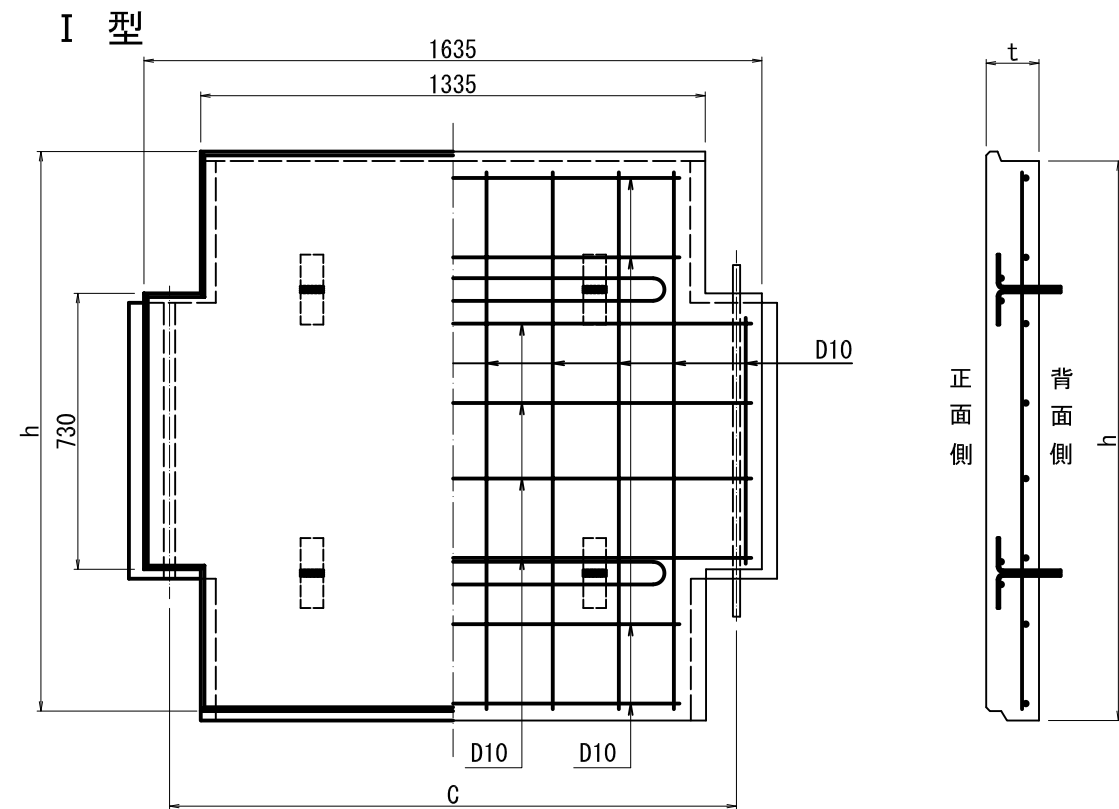
参考図表



特記事項

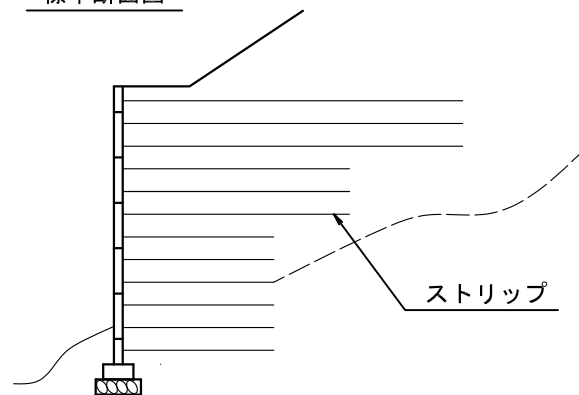
- ・ I 型は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ 以上、II 型は $\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・ つり下げ孔を設ける等、施工に配慮することが出来る。

名 称	補強土壁ブロック	標準設計番号	－
		工種記号	－

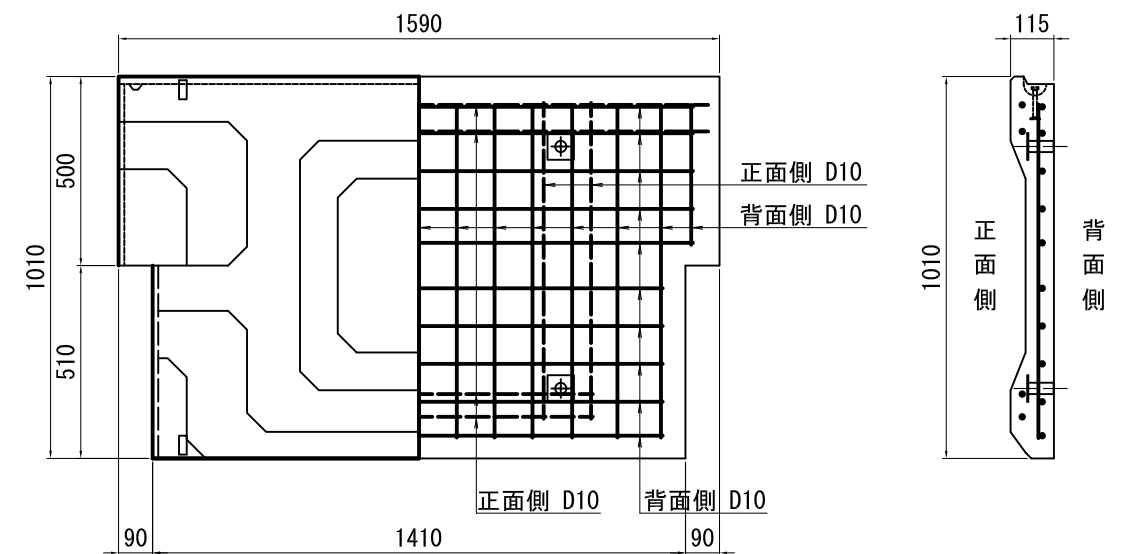


タイプ	寸 法 (mm)					参考質量 (kg)
	C	a	b	h	t	
I-1	1500	1715	1255	1480	140	790
I-2		1695				740
許容差	±5					－

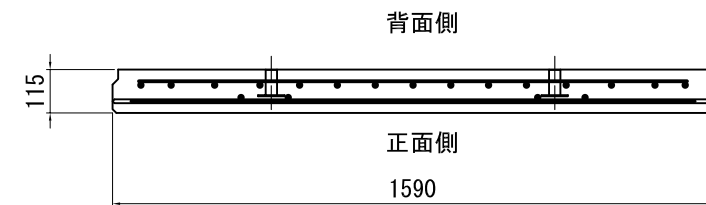
標準断面図



II 型

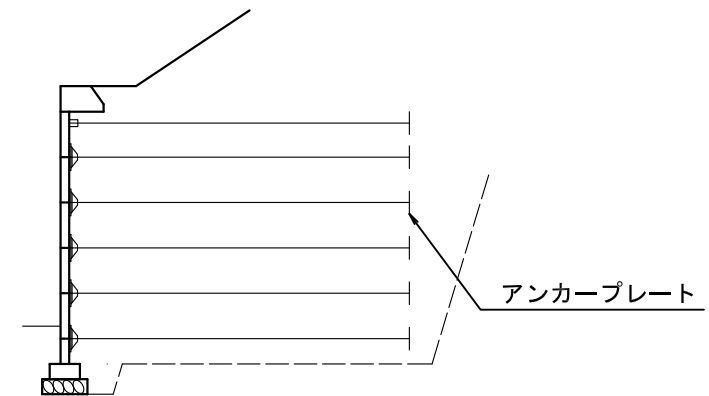


※配筋図はα壁面材を示す。

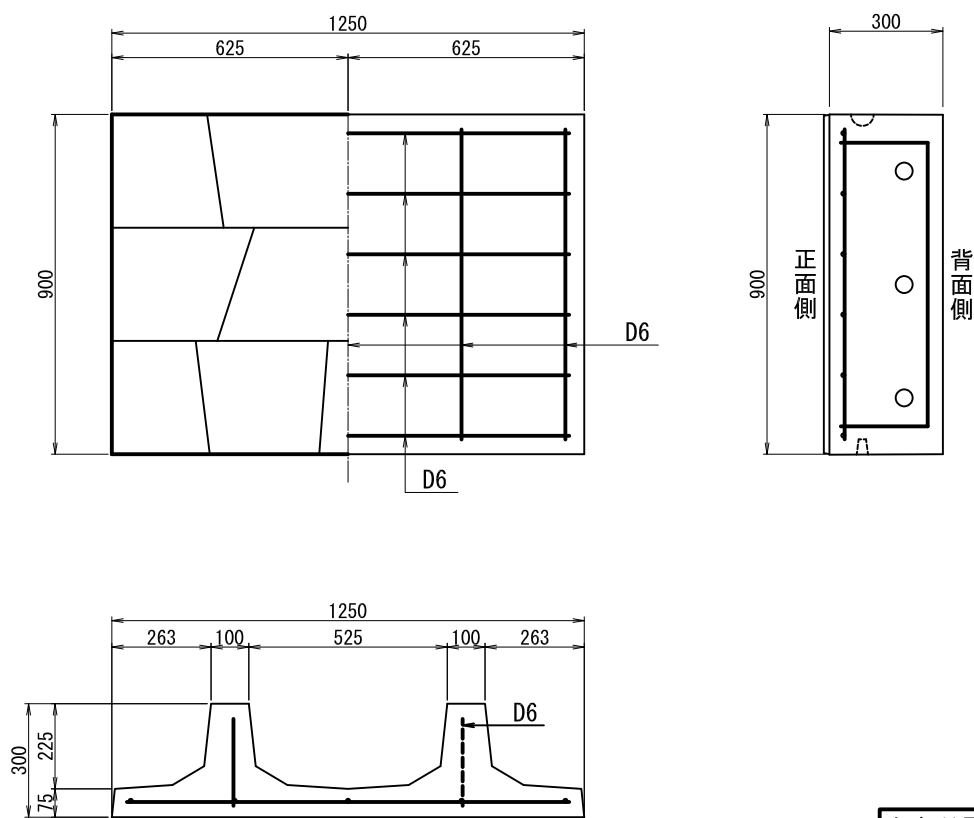


参考質量	許容差
350kg	± 5mm

標準断面図

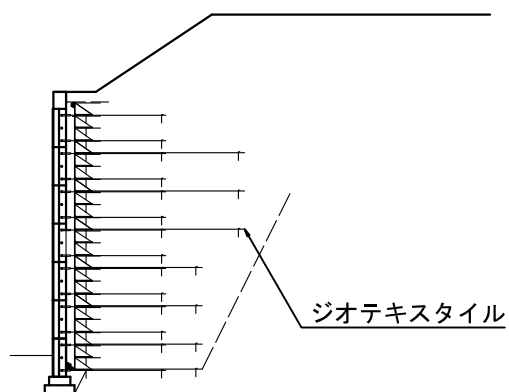


Ⅲ 型



参考質量	許容差
350kg	±5mm

標準断面図

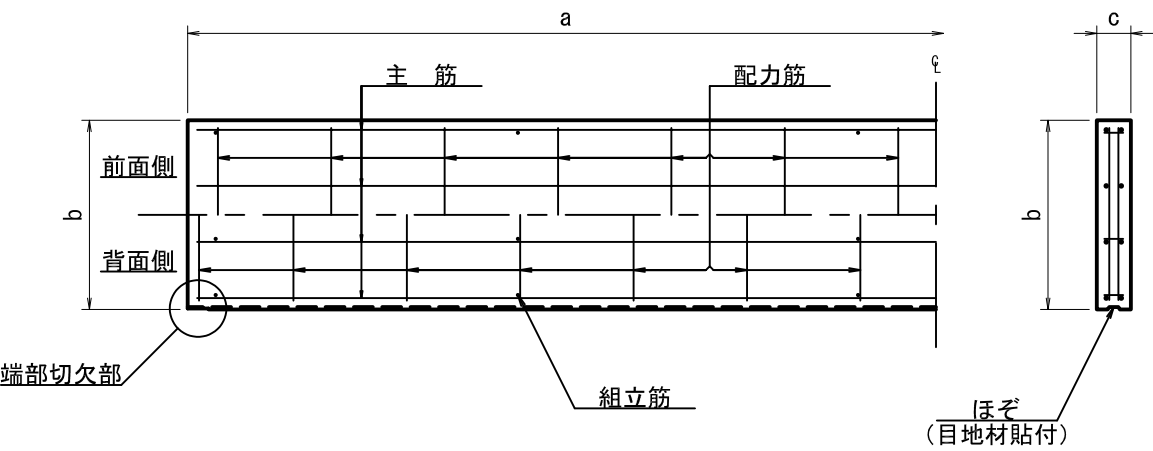


特記事項

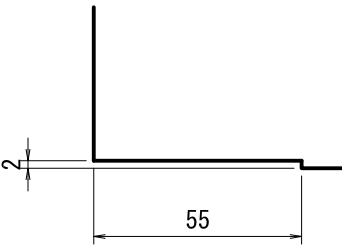
- ・ 詳細は、Ⅰ型(テールアルメ)については「補強土(テールアルメ)壁工法 設計・施工マニュアル(一般財団法人 土木研究センター)」による。
- ・ Ⅱ型(多数アンカー)については、「多数アンカー式補強土壁工法 設計・施工マニュアル(一般財団法人 土木研究センター)」による。
- ・ Ⅲ型については、「アダムウォール(補強土壁)工法 設計・施工マニュアル(一般財団法人 土木研究センター)」による。

名称	遮音壁	標準設計番号	－
		工種記号	－

遮音板

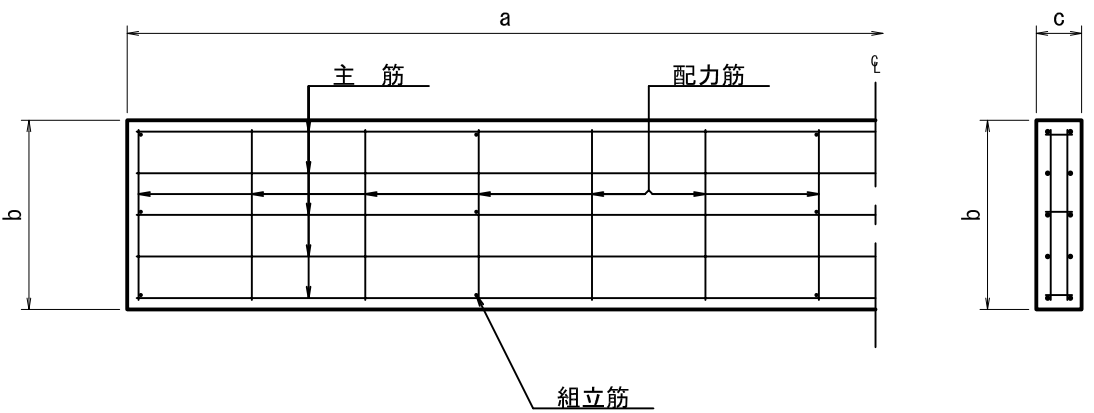


端部切欠形状

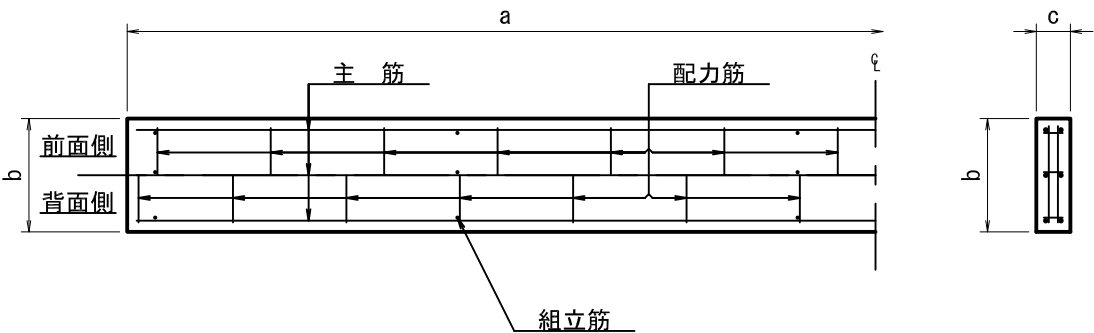


項目 呼び名	寸 法 (mm)			鉄 筋						参考質量 (kg)
	a	b	c	主 筋		配力筋		組立筋		
				径	本数	径	本数	径	本数	
遮音板	3960	500	90	D10	8	D6	28	D6	18	427
許 容 差	±4	±3	±3	—	—	—	—	—	—	—

土留板



保護路肩部土留板



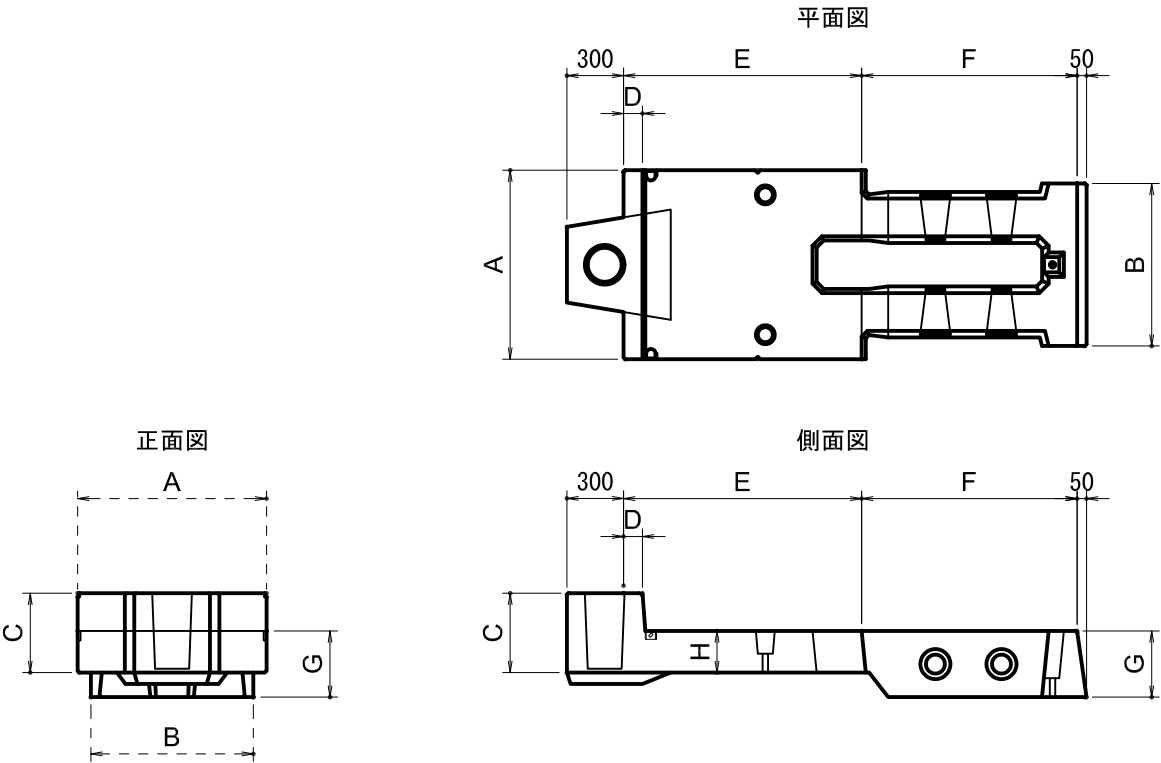
項目 呼び名	寸 法 (mm)			鉄 筋						参考質量 (kg)
	a	b	c	主 筋		配力筋		組立筋		
				径	本数	径	本数	径	本数	
土留板	3960	500	120	D10	10	D6	28	D6	18	570
保護路肩部土留板	3960	300	90	D10	6	D6	28	D6	18	257
許 容 差	±4	±3	±3	—	—	—	—	—	—	—

特記事項

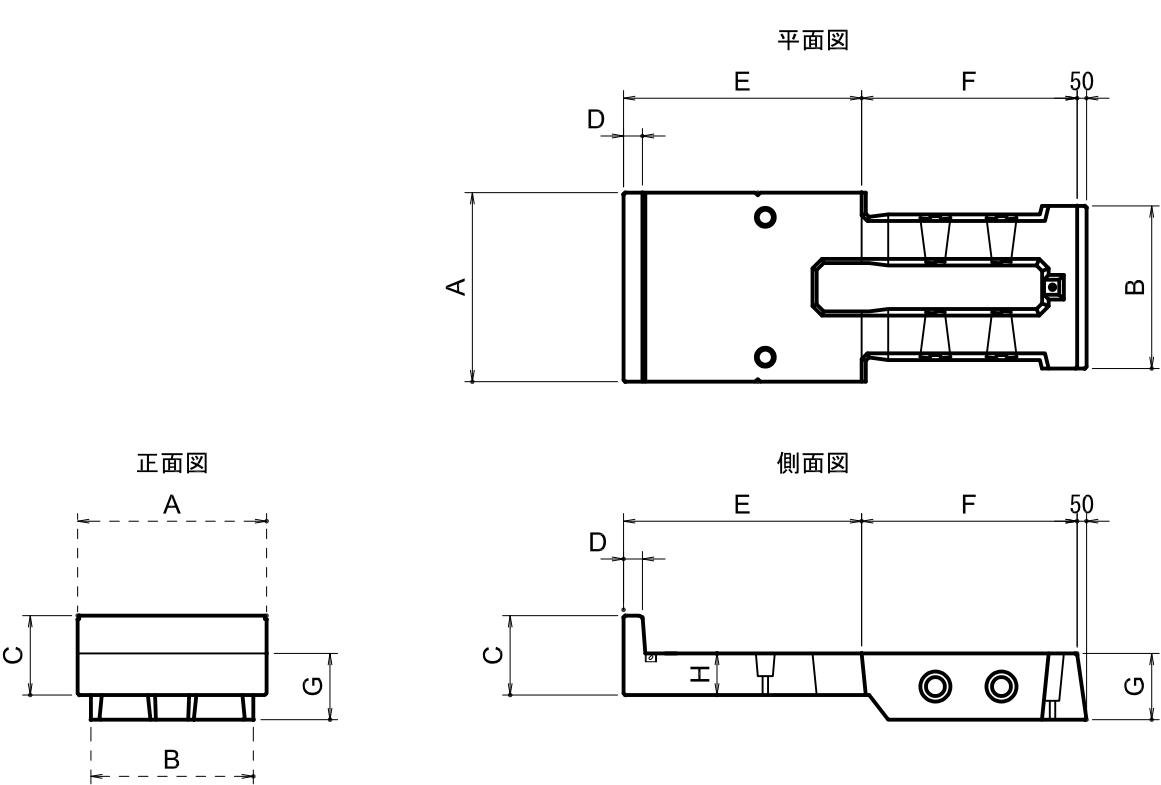
- ・詳細は「遮音壁標準設計図集（東・中・西日本高速道路㈱）」による。
- ・ $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・鉄筋はSD295とする。
- ・板厚90mmの土留板は遮音板と同様の型式（ほぞ有り）としても良い。
この場合目地材は用いない。

名称	張出式車道拡幅ブロック(その1)	標準設計番号	――
		工種記号	――

Pタイプ (ポスト・支柱取付用)



Fタイプ (フラット)

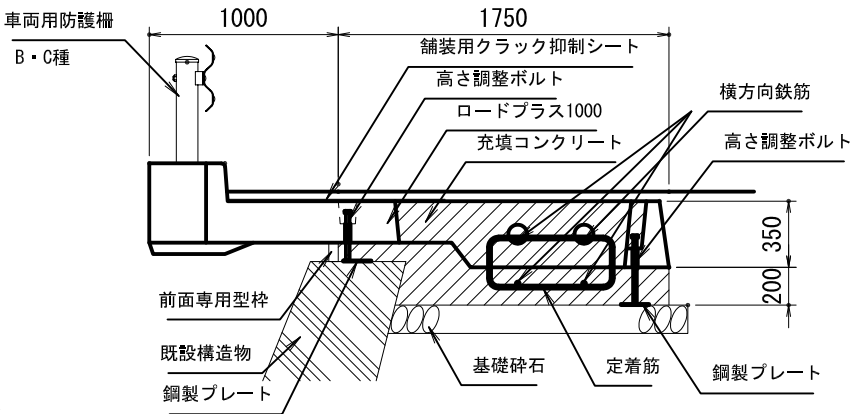


張出幅	タイプ	寸 法 (mm)								参考質量 (kg)
		A	B	C	D	E	F	G	H	
1000	Pタイプ	1000	860	420	100	1260	1140	350	220	1355
	Fタイプ	1000	860	420	100	1260	1140	350	220	1210
許容差		±5	±5	±3	+4, -2	±6	±5	±3	±3	
1500	Pタイプ	1000	860	480	100	1500	1900	430	280	2550
	Fタイプ	1000	860	480	100	1500	1900	430	280	2420
許容差		±5	±5	±3	+4, -2	±6	±8	±3	±3	
1750	Pタイプ	1000	860	480	100	1750	2300	430	280	2900
	Fタイプ	1000	860	480	100	1750	2300	430	280	2770
許容差		±5	±5	±3	+4, -2	±7	±9	±3	±3	

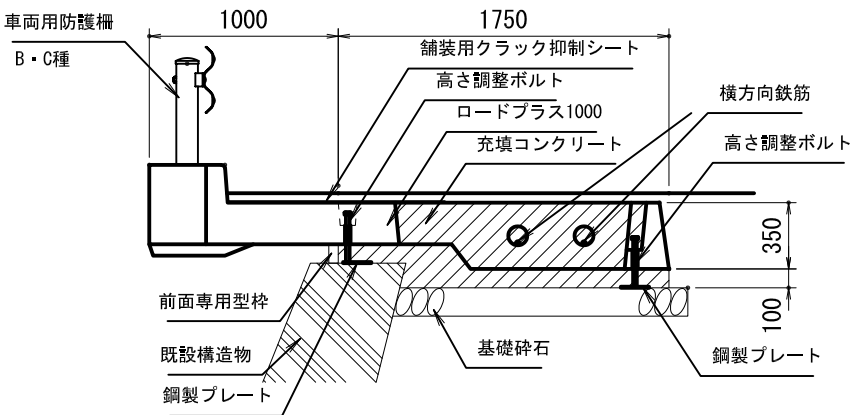
参考図表

張出幅1000 (Pタイプ)

大型車仕様



中型車仕様



- 注) ・地域特性に応じて、大型車仕様または中型車仕様を選定する。
- ・PタイプとFタイプを交互に設置することを基本とする。また設置個数は5本以上とする。
- ・コンクリート擁壁等構造物上への設置を基本とする。地盤上に直接設置する場合は支持力や地盤全体の安定性に十分注意する。
- ・充填コンクリートは $\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$ 以上とする。

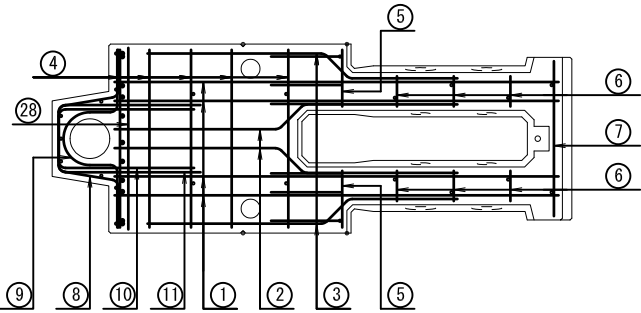
特記事項

- ・ $\sigma_{ck}=40\text{N/mm}^2$ 以上とする。
- ・鉄筋は、SD295 または SD345 とする。

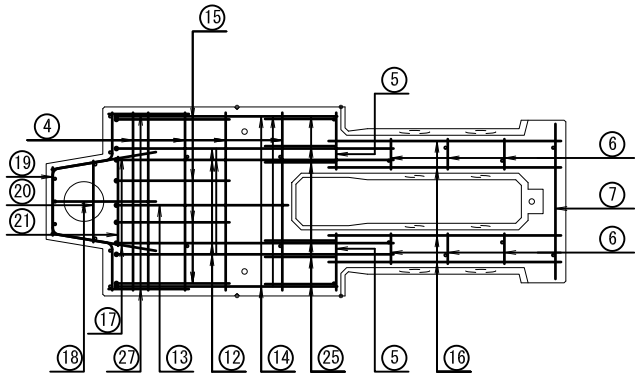
名称	張出式車道拡幅ブロック(その2)	標準設計番号	――
		工種記号	――

張出幅 1000 Pタイプ (ポスト・支柱取付用)

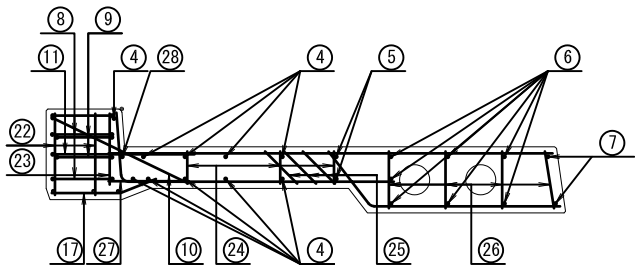
平面図 (上側)



平面図 (下側)

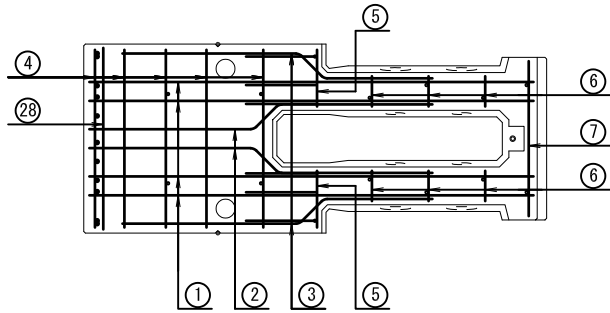


断面図

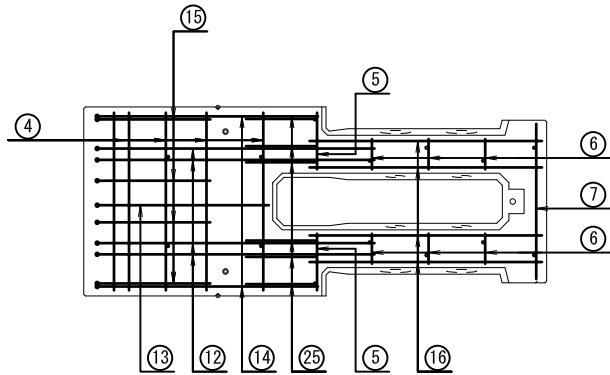


張出幅 1000 Fタイプ (フラット)

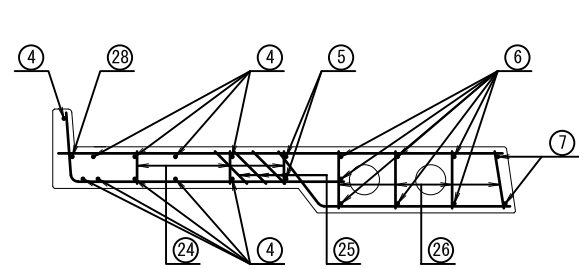
平面図 (上側)



平面図 (下側)

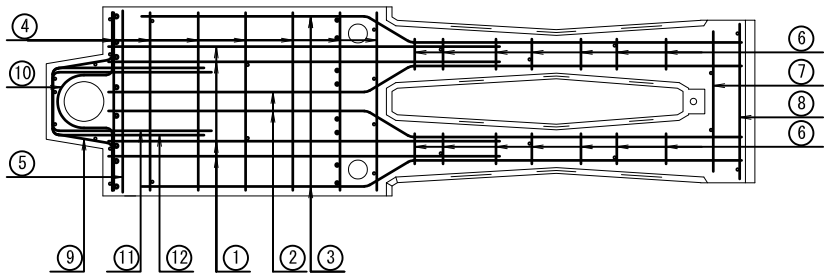


断面図

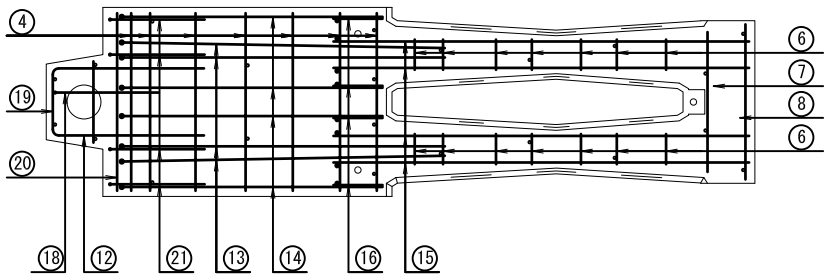


張出幅 1500 Pタイプ (ポスト・支柱取付用)

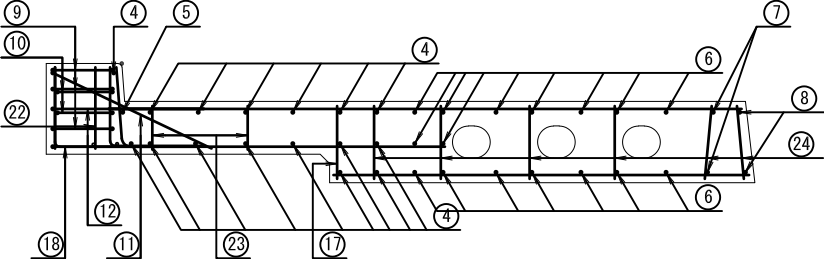
平面図 (上側)



平面図 (下側)

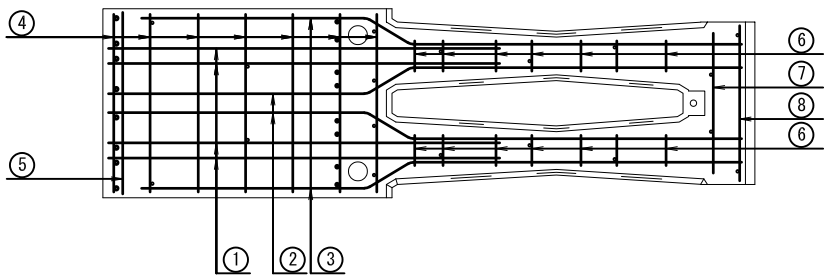


断面図

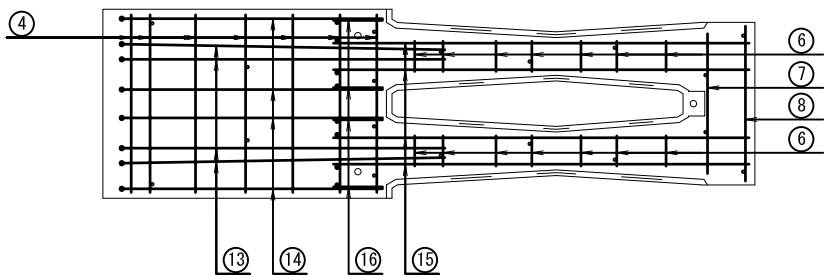


張出幅 1500 Fタイプ (フラット)

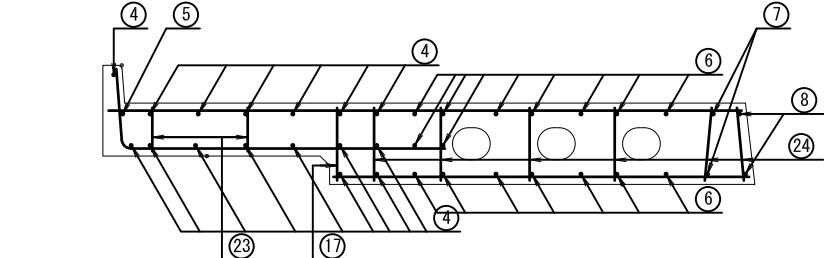
平面図 (上側)



平面図 (下側)

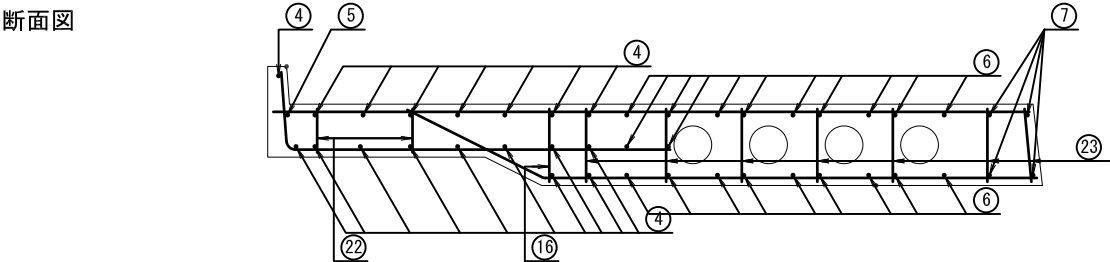
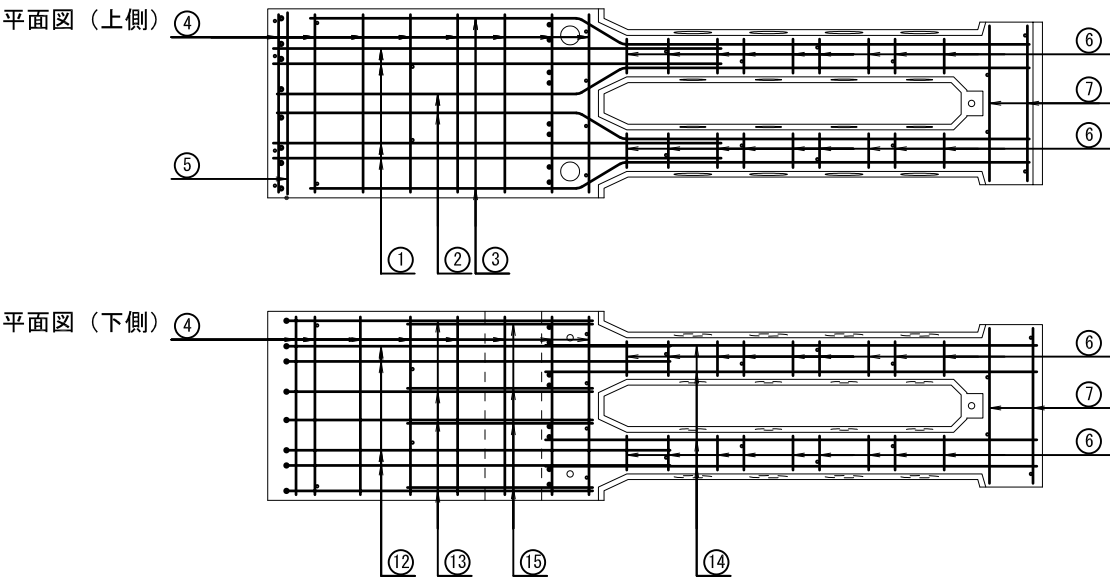


断面図

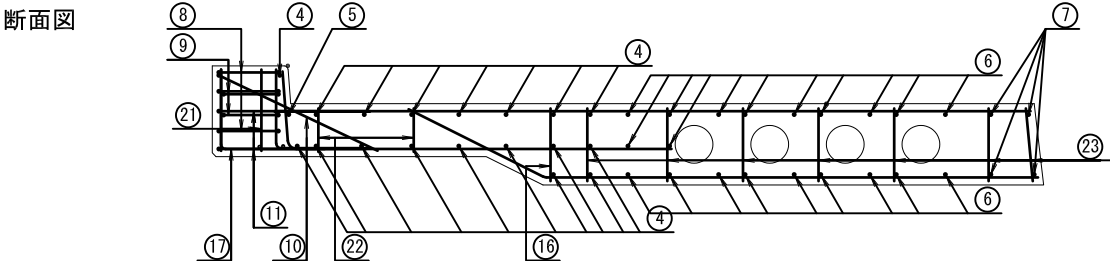
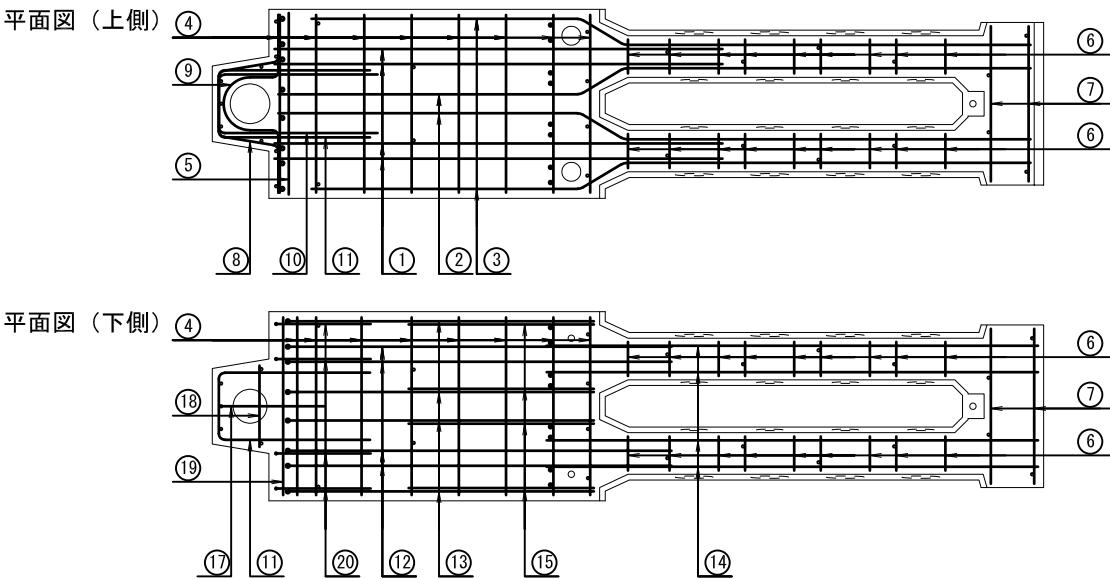


名 称	張出式車道拡幅ブロック（その3）	標準設計番号	――
		工種記号	――

張出幅 1750 Fタイプ（フラット）



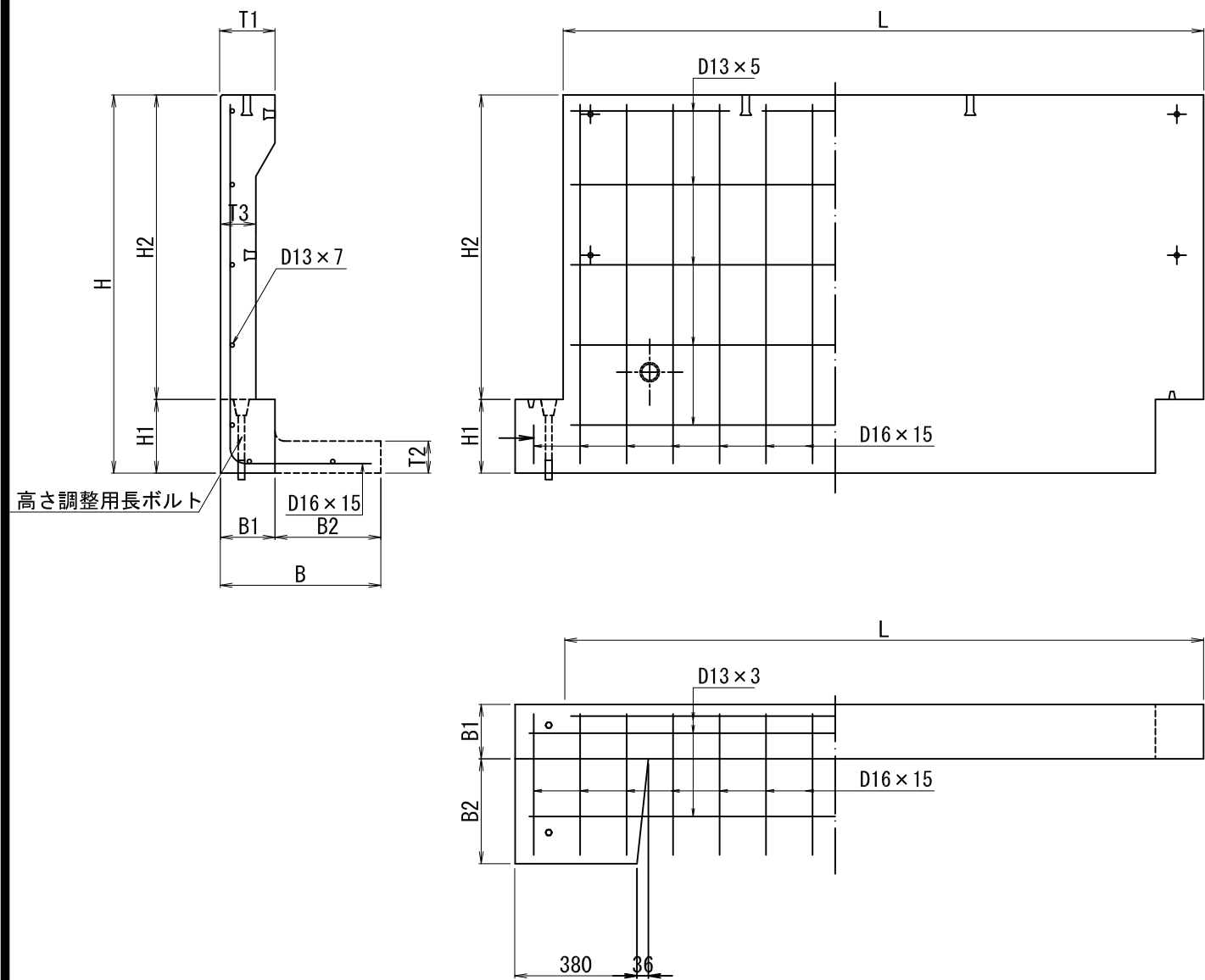
張出幅 1750 Pタイプ（ポスト・支柱取付用）



張出幅	1000				1500				1750			
タイプ	Pタイプ		Fタイプ		Pタイプ		Fタイプ		Pタイプ		Fタイプ	
記号	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数
①	D19	4	D19	4	D22	4	D22	4	D22	4	D22	4
②	D19	2	D19	2	D22	2	D22	2	D22	2	D22	2
③	D19	2	D19	2	D22	2	D22	2	D22	2	D22	2
④	D13	10	D13	10	D13	16	D13	16	D13	18	D13	18
⑤	D13	4	D13	4	D13	1	D13	1	D13	1	D13	1
⑥	D13	14	D13	14	D13	32	D13	32	D13	40	D13	40
⑦	D13	2	D13	2	D13	2	D13	2	D13	4	D13	4
⑧	D13	3	-	-	D13	2	D13	2	D13	3	-	-
⑨	D13	2	-	-	D13	3	-	-	D13	2	-	-
⑩	D13	1	-	-	D13	2	-	-	D13	1	-	-
⑪	D13	1	-	-	D13	1	-	-	D13	2	-	-
⑫	D16	4	D16	4	D13	2	-	-	D19	4	D19	4
⑬	D16	1	D16	1	D19	4	D19	4	D19	4	D19	4
⑭	D16	2	D16	2	D19	4	D19	4	D16	4	D16	4
⑮	D16	4	D16	4	D16	4	D16	4	D16	4	D16	4
⑯	D16	4	D16	4	D16	4	D16	4	D13	8	D13	8
⑰	D10	2	-	-	D13	8	D13	8	D10	1	-	-
⑱	D10	1	-	-	D10	1	-	-	D10	1	-	-
⑲	D10	1	-	-	D10	1	-	-	D10	1	-	-
⑳	D10	1	-	-	D10	1	-	-	D10	4	-	-
㉑	D10	1	-	-	D10	4	-	-	D10	4	-	-
㉒	D10	4	-	-	D10	4	-	-	D10	4	D10	4
㉓	D13	4	-	-	D10	4	D10	4	D10	16	D10	16
㉔	D10	6	D10	6	D10	14	D10	14	-	-	-	-
㉕	D10	18	D10	18	-	-	-	-	-	-	-	-
㉖	D10	8	D10	8	-	-	-	-	-	-	-	-
㉗	D10	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
㉘	D13	1	D13	1	-	-	-	-	-	-	-	-

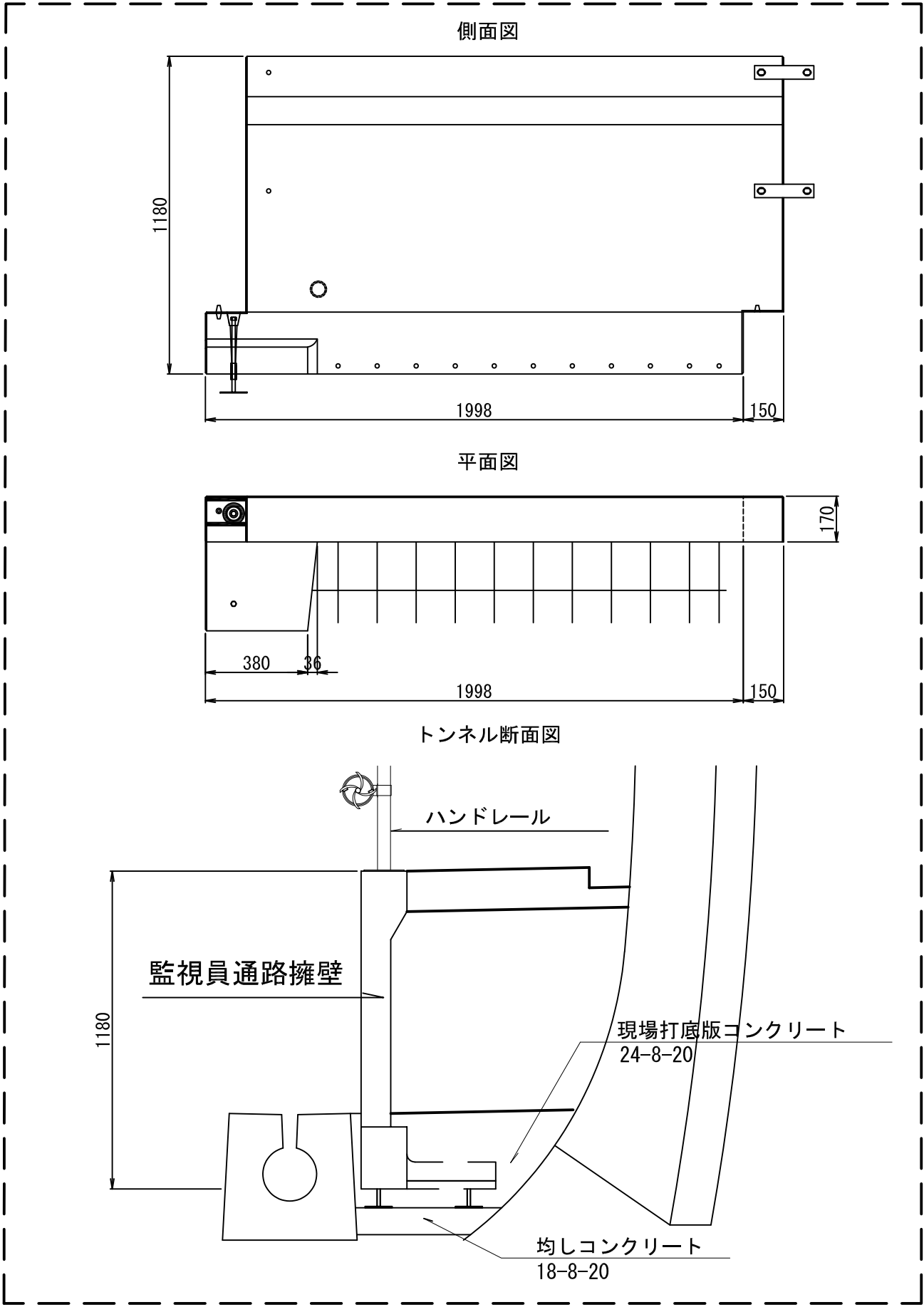
名称	トンネル用監視員通路擁壁	標準設計番号	――
		工種記号	――

監視員通路擁壁（標準部）



項目 呼び名	寸法 (mm)											参考 質量 (kg)
	B	H	T	L	H1	H2	B1	B2	T1	T2	T3	
監視員通路擁壁	500	1180	170	1998	230	950	170	330	170	100	110	792
許容差	±3	±5	+4, -2	±8	±3	±3	±3	±3	+4, -2	+4, -2	+4, -2	－

参考図表



特記事項

- ・ $\sigma_{ck} = 30\text{N/mm}^2$ 以上。
- ・ 擁壁は標準部の他に消火栓部、非常電話部、切り欠き水路部、非常駐車帯部製品製造も可能である。
- ・ 鉄筋は、SD295とする。